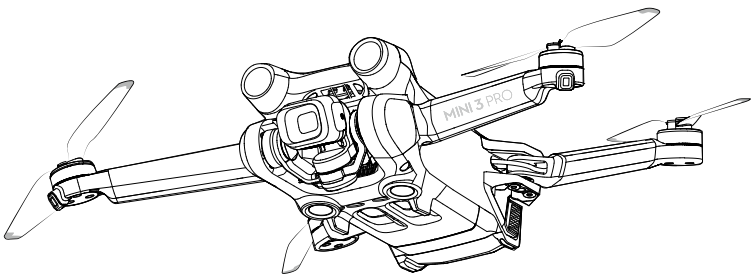
MINI 3 PRO

ユーザーマニュアル v1.0 2022.05



キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Readerを使用して本書をお読みの場合、WindowsではCtrl+F、MacではCommand+Fを押して検索を開始できます。

トピックへの移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

本マニュアルの使用方法

凡例

⊘ 警告　　⚠ 重要　　ヒントとコツ　　参考

初めてのフライト前にお読みいただくもの

DJI™ Mini 3 Proをお使いになる前に、以下の資料をお読みください。

1. 安全ガイドライン
2. クイックスタートガイド
3. ユーザーマニュアル

DJIのウェブサイトにあるすべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、安全に関するガイドラインをお読みください。初めての飛行に際しては「クイックスタートガイド」をよく読み、詳細に関しては本ユーザーマニュアルを参照してください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするかQRコードをスキャンすると、DJI Mini 3 Proのチュートリアルビデオを視聴でき、Mini 3 Proを安全にお使いいただく方法を知ることができます。

https://s.dji.com/guide11

DJI Flyアプリのダウンロード

飛行中は、必ずDJI Flyアプリを使用してください。上記のQRコードをスキャンして、最新版をダウンロードしてください。

⚠
- DJI RC送信機には、DJI Flyアプリがすでにインストールされています。DJI RC-N1送信機のご使用にあたり、DJI Flyアプリをモバイル端末にダウンロードする必要があります。
- Android版のDJI Flyは、Android v6.0以降で動作します。iOS版のDJI Flyは、iOS v11.0以降で動作します。

* より安全にご使用いただくために、飛行中にこのアプリに接続、ログインしていない場合などは、飛行高度が30 m、飛行範囲が50 mに制限されます。これはDJI FlyおよびDJIの機体に対応するすべてのアプリに適用されます。

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）のダウンロード

https://www.dji.com/mini-3-pro/downloadsから、DJI Assistant 2（一般向けドローン用）をダウンロードしてください。

⚠ この製品の動作環境温度は、-10℃ ～ 40℃で、より大きな環境変動に耐えることのできるミリタリーグレードの分野での標準動作環境温度（-55℃ ～ 125℃）の条件を満たしていません。製品を適切に動作させ、この製品の動作環境温度範囲の要件を満たしている分野に対してのみ実行してください。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

目次

本マニュアルの使用方法 2
- 凡例 2
- 初めてのフライト前にお読みいただくもの 2
- チュートリアルビデオ 2
- DJI Flyアプリのダウンロード 2
- DJI Assistant 2（一般向けドローン用）のダウンロード 2

製品の特徴 6
- はじめに 6
- 初めてのご使用にあたって 7
- 各部名称 9

機体 13
- はじめに 13
- フライトモード 13
- 機体ステータスインジケーター 14
- クイック転送 14
- RTH（Return-to-Home：帰還） 15
- ビジョンシステムおよび赤外線検知システム 18
- インテリジェント フライトモード 20
- 高度操縦支援システム (APAS 4.0) 27
- フライトレコーダー 28
- プロペラ 28
- インテリジェント フライトバッテリー 30
- ジンバル＆カメラ 36

送信機 39
- DJI RC 39
- DJI RC-N1 47

DJI Flyアプリ 53
- ホーム 53
- カメラビュー 54

© 2022 DJI All Rights Reserved.

飛行 59
飛行環境の条件 59
飛行制限 59
フライト前チェックリスト 61
自動離陸／自動着陸 61
モーターの始動と停止 62
飛行テスト 62
付録 65
仕様 65
ファームウェア更新 70
アフターサービス情報 71

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

製品の特徴

本セクションではDJI Mini 3 Proについて紹介し、機体と送信機の各部名称について説明します。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

製品の特徴

はじめに

DJI Mini 3 Proは、赤外線検知システムと、前方、後方および下方ビジョンシステムの両機能を搭載しています。これにより屋内でのホバリングや飛行が可能となり、屋外においてもホバリングや飛行および前方・後方・下方からの障害物を回避しながらの自動帰還（Return-to-Home）が可能になります。DJI Mini 3 Proは、249 g未満のコンパクトな折り畳み式デザインを採用しています。機体の最大飛行速度は57.6 km/h、インテリジェント フライトバッテリーを使用した場合の最大飛行時間は34分、インテリジェント フライトバッテリープラスを使用した場合の最大飛行時間は47分です。

DJI RC送信機には、1920x1080ピクセルの解像度と5.5インチのモニターが搭載されています。ユーザーはWi-Fi経由でインターネットに接続でき、Android OSにはBluetoothとGNSSの両方が含まれています。DJI RC送信機には、機体およびジンバルを制御するための幅広いコントロールとカスタムボタンがあります。最大駆動時間は約4時間です。RC-N1送信機は機体からモバイル端末上のDJI Flyアプリへ映像を送信し、表示します。送信機に搭載されたボタンを使用して機体とカメラを簡単に制御でき、送信機の駆動時間は約6時間です。

主な機能

ジンバル＆カメラ：高度な安定性を実現する3軸ジンバルと1/1.3インチセンサーカメラを搭載し、DJI Mini 3 Proは4K動画と48MPの写真撮影が可能です。また、DJI Flyでワンタップするだけで、ランドスケープ モードとポートレート モードを切り替えることもできます。

動画伝送：DJI Mini 3 Proは、4個の内蔵アンテナとDJIの長距離伝送技術O3 (OCUSYNC™ 3.0) を搭載しています。最大伝送距離は12 km（日本国内では8 km）を誇り、最大1080p/30fpsの映像を機体からDJI Flyアプリへ送信し、表示します。送信機は2.4 GHzと5.8 GHzの両方で動作し、自動的に最適な伝送チャンネルを選択できます（日本国内は2.4 GHzのみ利用可）。

高度な撮影モード：マスターショット、ハイパーラプス、クイックショットなどの機能を使って、複雑なシーンも簡単な手順で撮影しましょう。数回タップするだけで、機体は離陸し、事前に設定された飛行経路に従って飛行しながら撮影。その後、プロレベルの映像を自動的に生成します。クイック転送を使用すると、写真や動画のダウンロードと編集がより便利で効率的に行えるようになります。

インテリジェント フライトモード：ActiveTrack 4.0 と Point of Interest 3.0 を使用する場合、機体は、飛行経路上の障害物を検知しながら、自動で被写体をフォロー、または被写体の周りを飛行します。また、APAS 4.0 により、機体が障害物を回避するため、ユーザーは機体の操作に集中できます。

⚠
- 最大飛行時間と速度は、21.6 km/hの一定速度で、無風状態の海抜0 m付近を飛行させてテストしました。
- 送信機は、電波干渉のない広くて開けた場所で、高度約120 mで最大伝送距離（FCC準拠モード）に達します。最大駆動時間は、ラボ環境でのテストによるものです。この値は参考値です。
- 5.8 GHzの周波数は、一部の地域では対応していません。この周波数帯は、これらの地域では自動的に無効になります。現地の法律および規制を、必ず順守してください。
- インテリジェント フライトバッテリープラスは、別売です。一部の国と地域でのみ販売されています。詳細については、公式DJIオンラインストアをご覧ください。
- 機体をインテリジェント フライトバッテリープラスと組み合わせて使用した場合、最大離陸重量は249 gを超えます。離陸重量に関する現地の法律および規制を、必ず順守してください。
- スポーツモードで録画した動画は、軽微な映像揺れが発生する場合があります。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

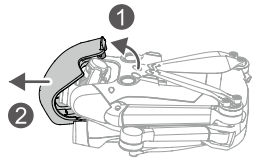
初めてのご使用にあたって

DJI Mini 3 Proは、折りたたんだ状態で梱包されています。以下の手順に従って、機体と送信機を展開してください。

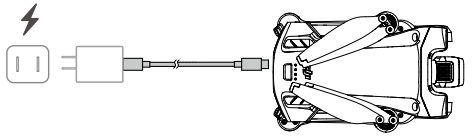
機体の準備

梱包時には、機体のすべてのアームは折りたたんだ状態です。以下の手順に従って、機体を展開してください。

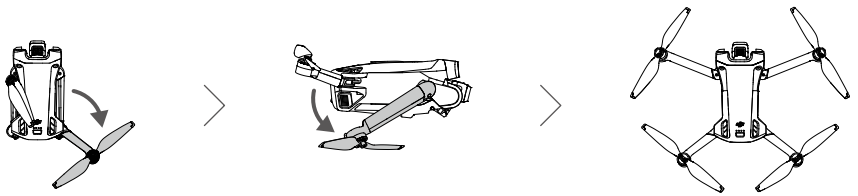
1. カメラからジンバル プロテクターを取り外します。



2. すべてのインテリジェント フライトバッテリーは、安全のためにハイバネーション モードで出荷されています。初めて使用する際は、USB充電器を機体のUSB-Cポートに接続して、インテリジェント フライトバッテリーを充電してアクティベーションしてください。



3. 後方のアーム、前方のアーム、すべてのプロペラブレードの順に展開します。



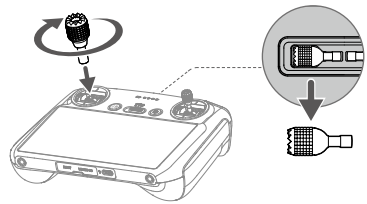
⚠
- DJI 30W USB-C充電器またはその他のPD規格対応のUSB充電器を使用することをお勧めします。
- 機体の充電ポートの最大充電電圧は12 Vです。
- ジンバル プロテクターを取り外し、すべてのアームを広げてから、機体の電源を入れてください。この手順に従わないと、機体の自己診断テストに影響が出る恐れがあります。
- 機体を使用しないときは、ジンバル プロテクターを取り付けてください。ジンバル プロテクターを再度取り付ける前に、すべてのアームが折りたたまれていることを確認してください。まず、カメラを回転させて水平にし、前向きにします①。ジンバル プロテクターを取り付ける際は、まずカメラがプロテクターに収まっていることを確認してから、プロテクター上部のラッチを機体の開口部②に挿入し、2本の位置決めピンを機体下部の穴③に挿入します。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

送信機の準備

以下の手順で、DJI RC送信機を準備してください。

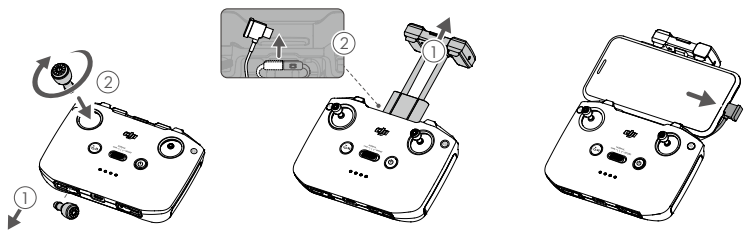
1. 操作スティックを収納スロットから取り外し、送信機に取り付けます。



2. 初めて使用する場合、送信機のアクティベーションが必要です。アクティベーションする際は、インターネットへの接続が必要になります。電源ボタンを押した後、再度長押しして送信機の電源を入れます。画面の指示に従って、送信機をアクティベーションします。

以下の手順で、DJI RC-N1送信機を準備してください。

1. 操作スティックを収納スロットから取り外し、送信機に取り付けます。
2. モバイル端末ホルダーを引き出します。ご使用のモバイル端末のポートタイプに基づき、適切な送信機ケーブルを選択します（Lightningコネクターケーブル、Micro USBケーブル、およびUSB-Cケーブルが同梱されています）。ご使用のモバイル端末をホルダーに装着し、送信機ロゴのない方のケーブルの端をモバイル端末に接続します。モバイル端末がしっかりと固定されていることを確認してください。



⚠ • Androidモバイル端末の使用時にUSB接続プロンプトが表示された場合は、充電のみのオプションを選択します。その他のオプションを選択すると、接続が失敗する場合があります。

DJI Mini 3 Pro本体のアクティベーション

初めて使用する前に、DJI Mini 3 Proをアクティベーションする必要があります。機体と送信機の電源を入れた後、DJI Flyで画面上の指示に従ってDJI Mini 3 Proをアクティベーションします。アクティベーションにはインターネット接続が必要です。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

機体と送信機の紐付け

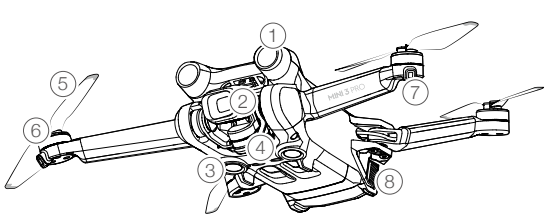
アクティベーション後、機体は送信機に自動で紐づけされます。その紐づけに失敗した場合は、DJI Flyの画面上の指示に従って、最適な保証サービスを受けるために機体と送信機を紐づけしてください。

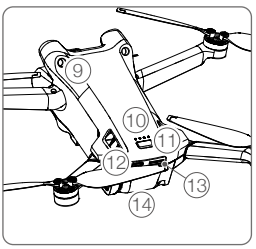
ファームウェアの更新

新しいファームウェアが利用可能になると、DJI Flyにプロンプトが表示されます。プロンプトが表示され次第、いつでもファームウェアを更新して、最適なユーザーエクスペリエンスを体感してください。

各部名称

機体

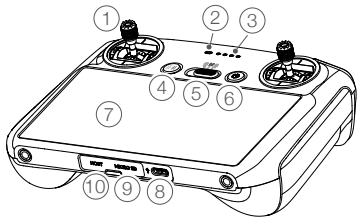




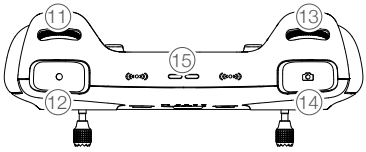
1. 前方ビジョンシステム
2. ジンバル＆カメラ
3. 下方ビジョンシステム
4. 赤外線検知システム
5. プロペラ
6. モーター
7. 機体のステータスLED
8. バッテリーバックル
9. 後方ビジョンシステム
10. バッテリー残量LED
11. 電源ボタン
12. USB-Cポート
13. microSDカードスロット
14. インテリジェント フライトバッテリー

© 2022 DJI All Rights Reserved.

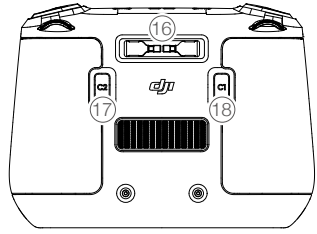
DJI RC送信機



1. 操作スティック
   操作スティックを使用して、機体の動きを制御します。操作スティックは、着脱可能で簡単に収納できます。DJI Flyのフライトコントロールモードを設定します。
2. ステータスLED
   送信機の状態を示します。
3. バッテリー残量LED
   送信機の現在のバッテリー残量を表示します。
4. 飛行一時停止／RTH（Return-to-Home）ボタン
   ボタンを1回押すと機体にブレーキがかかり、その場でホバリングを行います（GNSSまたはビジョンシステムが利用可能な場合のみ）。長押しすると、RTHを起動します。再度押すと、RTHはキャンセルされます。



11. ジンバルダイヤル
    カメラのチルトを操作します。
12. 録画ボタン
    1回押すと、録画を開始／停止します。
13. カメラ制御ダイヤル
    ズーム制御用です。
14. フォーカス／シャッターボタン
    ボタンを半押しするとオートフォーカスが作動し、全押しすると写真を撮影します。
15. スピーカー
    音声を出力します。



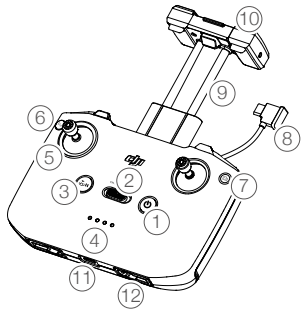
16. 操作スティック収納スロット
    操作スティックの収納用です。
17. カスタムボタンC2
    ジンバルの再センタリングとジンバルを下方に向ける機能を切り替えます。この機能は
5. フライトモードスイッチ
   Cine（シネ）、Normal（ノーマル）、Sport（スポーツ）の3種類のフライトモードを切り替えます。
6. 電源ボタン
   ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。送信機の電源が入っているときに、1回押すと、タッチ画面のオン／オフを切り替えられます。
7. タッチ画面
   画面をタッチして、送信機を操作します。タッチ画面は防水ではありません。慎重に操作してください。
8. USB-Cポート
   送信機の充電や送信機とパソコンとの接続のために使用します。
9. microSDカードスロット
   microSDカードの挿入に使用します。
10. ホストポート (USB-C) *
    DJIセルラーモジュール（別売）の接続に使用します。
    * 後日のファームウェア更新で対応する予定です。

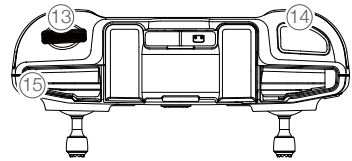
 © 2022 DJI All Rights Reserved.

DJI Flyで設定できます。

18. カスタムボタンC1
ジンバルの再センタリングとジンバルを下方に向ける機能を切り替えます。

DJI RC-N1 送信機





1. 電源ボタン
ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。

2. フライトモードスイッチ
スポーツ、ノーマル、シネモードを切り替えます。

3. 飛行一時停止／RTH（Return-to-Home）ボタン
ボタンを1回押すと機体にブレーキがかかり、その場でホバリングを行います（GNSSまたはビジョンシステムが利用可能な場合のみ）。長押しすると、RTHを起動します。再度押すと、RTHはキャンセルされます。

4. バッテリー残量LED
送信機の現在のバッテリー残量を表示します。

5. 操作スティック
操作スティックは、着脱可能で簡単に収納できます。DJI Flyのフライトコントロールモードを設定します。

6. カスタムボタン
このボタンの機能はDJI Flyで設定できます。1回押すと、ジンバルを再センタリングする、もしくはジンバルを下方に向けます（デフォルト設定）。

7. 写真／動画の切り替え
1回押すと写真モードと動画モードを切り替えます。

8. 送信機ケーブル
送信機ケーブルを介して動画リンクするモバイル端末に接続します。モバイル端末のポートタイプに合ったケーブルを選択してください。

9. モバイル端末ホルダー
モバイル端末を送信機にしっかりと取り付けます。

10. アンテナ
機体制御信号と無線映像信号を送信します。

11. USB-Cポート
送信機の充電や送信機とパソコンとの接続のために使用します。

12. 操作スティック収納スロット
操作スティックの収納用です。

13. ジンバルダイヤル
カメラのチルトを操作します。カスタムボタンを長押したまま、ジンバルダイヤルを使用するとズームを制御できます。

14. シャッター／録画ボタン
1回押すと、写真を撮影するか、録画を開始／停止します。

15. モバイル端末スロット
モバイル端末を固定します。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

機体

DJI Mini 3 Proは、フライトコントローラー、動画ダウンリンクシステム、ビジョンシステム、赤外線検知システム、推進システム、インテリジェント フライトバッテリーで構成されています。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

機体

はじめに

DJI Mini 3 Proは、フライトコントローラー、動画ダウンリンクシステム、ビジョンシステム、推進システム、インテリジェント フライトバッテリーで構成されています。

フライトモード

DJI Mini 3 Proには、3つのフライトモード、加えて特定のシナリオで機体のモードが切り替わる第4のフライトモードがあります。送信機のフライトモードスイッチを使用して、フライトモードを切り替えることができます。

ノーマルモード（Nモード）：機体は、GNSSと前方／後方／下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムを利用して、機体自身の位置を測位し、安定化します。GNSS信号が強いときには機体はGNSSを使用して機体自身の位置を測位し、安定化を行います。GNSSが弱く、周囲が十分に明るく、その他の環境条件が十分揃っている場合、機体はビジョンシステムを使用します。全水平方向（前方、後方）、下方ビジョンシステムが有効で、周囲が十分に明るく、その他の環境条件が十分揃っている場合、最大チルト角度は25°で、最大飛行速度は10 m/sです。

スポーツモード（Sモード）：スポーツモードでは、機体はGNSSを利用して測位し、敏捷性と速度に対する機体の反応性が最適化され、操作スティックの動きに対して反応がより機敏になります。このモードでは障害物回避が無効になっており、最大飛行速度は16 m/sになります。

シネモード（Cモード）：シネモードはノーマルモードに基づいていますが、飛行速度が制限されるため、撮影中の機体はより安定します。

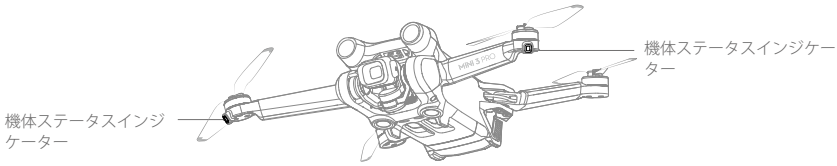
ビジョンシステムが利用できないか無効になっている場合、かつGNSS信号が弱いかコンパスが干渉を受けている場合、機体は自動的に姿勢モード（ATTIモード）に切り替わります。ATTIモードでは、機体は周囲環境の影響をより受けやすくなります。風などの環境要因によって水平方向に移動することがあり、狭いスペースを飛行している際は特に危険を招くおそれがあります。機体は自動的にホバリングしたりブレーキをかけたりすることができないため、操縦者は事故を避けるためにできるだけ早く機体を着陸させる必要があります。

⚠
- 前方／後方ビジョンシステムはスポーツモードでは無効になります。これは、機体がルート上の障害物を自動的に検知できないということです。ユーザーは周囲の環境に注意を払い、障害物を避けて機体を制御する必要があります。
- スポーツモードでは、機体の最大速度が向上し、制動距離が著しく増加します。無風状態の場合、制動距離は少なくとも30 m必要です。
- スポーツモードまたはノーマルモードでの機体の上昇時と下降時は、無風状態の場合で、少なくとも10 mの制動距離が必要です。
- スポーツモードでは、機体の応答性が著しく向上します。そのため、送信機の操作スティックをわずかに動かしただけでも、機体は大きく移動します。飛行中は必ず、十分な飛行スペースを確保するようにしてください。
- 機体が左方または右方に飛行しているときは、飛行速度と飛行姿勢の両方が制限されるため、撮影中の機体は安定します。ジンバルのチルトが-90°のときに制限が最大になります。強風の場合は、機体の風圧抵抗を向上させるために速度制限を無効にします。その結果、撮影中にジンバルが振動することがあります。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

機体ステータスインジケーター

DJI Mini 3 Proには2つの機体ステータスインジケーターがあります。



機体の電源は入っているがモーターが作動していない場合、機体ステータスインジケーターはフライトコントロール システムの現在の状態を表示します。機体ステータスインジケーターの詳細については、下表を参照してください。

機体ステータスインジケーターの説明

正常の状態			
Ⓡ Ⓖ Ⓨ ……	赤色、緑色、黄色が交互に	点滅	電源がオンになり、自己診断テストを実行
Ⓨ x4 ……	黄色	4回点滅	ウォーミングアップ
Ⓖ ……·	緑色	ゆっくりと点滅	GNSSが有効
Ⓖ ×2 ……·	緑色	定期的に2回点滅	ビジョンシステムが有効
Ⓨ ……·	黄色	ゆっくりと点滅	GNSSまたはビジョンシステムなし（ATTIモード）
警告の状態			
Ⓨ ……	黄色	素早く点滅	送信機の信号ロスト
Ⓡ ……·	赤	ゆっくりと点滅	バッテリー残量低下
Ⓡ ……	赤	素早く点滅	バッテリー残量極度に低下
Ⓡ ——	赤	点灯	重大なエラー
Ⓡ Ⓨ ……	赤色と黄色が交互に	素早く点滅	コンパスキャリブレーションが必要

モーターが始動すると、機体ステータスインジケーターが緑色に点滅します。

⚠ •照度要件は地域によって異なります。現地の法律および規制を順守してください。

クイック転送

DJI Mini 3 ProはWi-Fi経由でモバイル端末に直接接続できるため、DJI RC-N1送信機を使わず、DJI Flyを介して、機体からモバイル端末に写真や動画をダウンロードできます。最大25 MB/sの伝送速度で、より高速かつ便利なダウンロードが楽しめます。

使用方法

方法1：モバイル端末が送信機に接続されていない場合

1. 機体の電源を入れて、機体の自己診断テストが完了するまで待ちます。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

2. モバイル端末でBluetoothとWi-Fiが有効になっていることを確認してください。DJI Flyを起動すると、機体に接続するためのプロンプトが表示されます。
3. [接続]をタップします。接続に成功すると、機体のファイルにアクセスでき、高速ダウンロードが可能になります。

方法2：モバイル端末が送信機に接続されている場合

1. 機体が送信機を介してモバイル端末に接続されており、モーターがオフになっていることを確認してください。
2. モバイル端末でBluetoothとWi-Fiを有効にします。
3. DJI Flyを起動し、再生画面に入り、右上の をタップすると、機体のファイルにアクセスでき、高速ダウンロードが可能になります。

⚠
- DJI RCはクイック転送に対応していません。
- 最大ダウンロードレートは、5.8 GHz周波数が法律および規制によって許可されている国や地域で、5.8 GHz周波数帯域とWi-Fi接続に対応したデバイスを、干渉や障害物のない環境で使用する場合にのみ実現できます。5.8 GHzが現地の規制で許可されていない場合（日本など）、ユーザーのモバイル端末は5.8 GHzの周波数帯域に対応しないか、強い干渉を受ける可能性があります。このような状況では、クイック転送は2.4 GHzの周波数帯域を使用して最大ダウンロードレートが6 MB/秒に低下します。
- クイック転送を使用する前に、モバイル端末でBluetoothとWi-Fiおよび位置情報サービスが有効になっていることを確認してください。
- クイック転送を使用する場合、接続するためにモバイル端末の設定ページでWi-Fiパスワードを入力する必要はありません。DJI Flyを起動すると、機体に接続するためのプロンプトが表示されます。
- 干渉や障害物のない環境でクイック転送を使用し、無線ルーター、Bluetoothスピーカー、ヘッドホンなどの干渉源に近づかないでください。

RTH（Return-to-Home：帰還）

Return to Home (RTH) 機能により、測位システムが正常に機能しているとき、機体は最後に記録されたホームポイントに戻されます。以下の3つのRTHモードがあります。スマートRTH、ローバッテリーRTH、フェールセーフRTHです。スマートRTHが開始されるか、機体がローバッテリーRTHに入るか、または送信機と機体との信号が失われると、機体は自動的にホームポイントに戻り、着陸します。動画伝送が失われた場合などの他の異常が発生した場合にも、RTHが起動します。

	GNSS	説明
ホームポイント	10	デフォルトのホームポイントとして記録されるのは、強いまたはやや強いGNSS信号（白いアイコンで表示）を機体が最初に受信した場所です。飛行前に、ホームポイントが正常に記録されるまで待つことをお勧めします。ホームポイントが記録されると、DJI Flyにプロンプトが表示されます。ホームポイントは、機体が強いまたはやや強い別のGNSS信号を受信しているときに限り、離陸前に更新できます。信号が弱い場合は、ホームポイントは更新されません。飛行中にホームポイントを更新する必要がある場合（ユーザーの位置が変更された場合など）、DJI Flyの[システム設定]の[安全]でホームポイントを手動で更新できます。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

スマートRTH

十分に強いGNSS信号を受信している場合は、スマートRTHを使用して機体をホームポイントに戻すことができます。DJI Flyでをタップするか送信機のRTHボタンをビープ音が鳴るまで長押しすることで、スマートRTHを起動します。DJI Flyでをタップするか送信機のRTHボタンを押すことで、スマートRTHを終了できます。RTHを終了すると、機体を制御できるようになります。

直線RTH

スマートRTHを開始した場合、機体は直線RTHに入ります。

直線RTHの手順：

1. ホームポイントが記録されます。
2. スマートRTHが起動されます。
3. 機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。
   a. RTH開始時に機体がホームポイントから50 m以上離れている場合、機体は向きを調整し事前設定したRTH高度まで上昇しホームポイントに向かいます。現在の高度がRTH高度より高い場合、機体は現在の高度でホームポイントに向かいます。
   b. RTH開始時に機体がホームポイントから5〜50 mの距離にある場合、機体は向きを調整し現在の高度でホームポイントに向かいます。RTH開始時に現在の高度が2 m未満の場合、機体は2 mまで上昇し、ホームポイントに戻ります。
   c. RTH開始時に機体からホームポイントまでの距離が5 m未満の場合、機体は速やかに着陸します。
4. 機体はホームポイントに到達すると、着陸してモーターを停止します。

ローバッテリーRTH

インテリジェント フライトバッテリー残量が、安全な帰還ができない残量にまで減少すると、ローバッテリーRTHが起動します。ローバッテリー警告が表示されたら、直ちに機体を帰還させるか、着陸させてください。

電力不足による不必要な危険を回避するために、DJI Mini 3 Proは、現在地に基づいて、バッテリー残量が帰還するのに十分であるかどうかを判断します。バッテリー残量が低下しても、RTHを完了するのに十分な残量がある場合にのみ、DJI Flyに警告プロンプトが表示されます。

送信機のRTHボタンを押すことでRTHをキャンセルできます。ローバッテリー（バッテリー残量低下）警告が出た後にRTHをキャンセルすると、インテリジェント フライトバッテリーの残量不足で安全に着陸できないおそれがあります。その結果、機体が墜落したり紛失したりする可能性があります。

今いる高度から下降するだけのバッテリー残量がある場合は、機体は自動的に着陸を開始します。自動着陸をキャンセルすることはできませんが、送信機を使用して着陸中の機体の水平方向の動きや下降速度を操作できます。バッテリー残量が十分にある場合は、スロットルスティックを使用して、機体を最大1 m/sの速度で上昇させることができます。

自動着陸中は、機体を水平に動かして、できるだけ早く安全な場所に着陸させてください。バッテリーがなくなるまでスロットルスティックを上に押し続けると、機体は落下します。

フェールセーフRTH

送信機信号が失われた時に機体が実行するアクションは、DJI Flyでは[Return-to-Home]、[着陸]、または[ホバリング]に設定できます。アクションがReturn-to-Homeに事前に設定され、そのホームポ

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

イントが記録されていて、GNSS信号が良好で、コンパスが正常に機能している場合、送信機信号が3秒以上失われると、フェールセーフRTHが自動的に起動します。

送信機信号が失われた時に、機体がホームポイントから50 mより手前の場所にあれば、機体は現在の高度でホームポイントに向かいます。送信機信号が失われた時に、機体がホームポイントから50 m以上離れている場合、元の飛行ルートに沿って50m戻り、直線RTHに入ります。RTH中に送信機信号が回復しても、機体は直線RTHに入るか直線RTHをそのまま実行します。

元の飛行ルートに沿って50m戻りした後：

1. もし機体がホームポイントから50 mより手前の場所にあれば、機体は現在の高度でホームポイントまで戻ります。
2. 機体がホームポイントから50 m以上離れていて、現在の高度が事前設定のRTH高度より高い場合、機体は現在の高度でホームポイントまで戻ります。
3. 機体がホームポイントから50 m以上離れていて、現在の高度が事前設定のRTH高度より低い場合、機体は事前設定の高度まで上昇してからホームポイントまで戻ります。

RTH中の障害物回避

機体が上昇中：

1. 前方に障害物を検知すると機体はブレーキをかけて、安全な距離に達するまで後方に飛行し、その後上昇を続けます。
2. 後方に障害物を検知すると機体はブレーキをかけて、安全な距離に達するまで前方に飛行し、その後上昇を続けます。
3. 機体の下方に障害物が検知されたときにはいかなる動作も発生しません。

機体が前方に飛行中：

1. 前方に障害物を検知すると機体はブレーキをかけて、安全な距離を確保するまで後方に飛行し、その後前方に障害物がなくなるまで上昇を続けます。その後さらに2秒間上昇してから、前方に飛行を続けます。
2. 機体の後方から障害物が検知されたときにはいかなる動作も発生しません。
3. 下方に障害物が検知された場合に機体はブレーキをかけて、障害物が検知されなくなるまで上昇し、その後前方に飛行します。

⚠
- RTH中は、機体の側面の障害物を検知または回避することはできません。
- GNSS信号が弱いまたは利用不可の場合、機体はホームポイントに戻れないことがあります。フェールセーフRTHに入った後に、GNSS信号が弱くなった、または利用不可になった場合、機体はATTIモードに入ることがあります。機体は着陸する前に、しばらくの間その場でホバリングします。
- 飛行の前には、その都度、適切なRTH高度を設定してください。DJI Flyを起動して、RTH高度を設定します。RTHでは、機体の現在の高度がRTH高度よりも低い場合、機体はまず自動的にRTH高度まで上昇します。高度がRTH高度に達しているか、それよりも高い場合、機体は現在の高度でホームポイントに向かいます。
- RTH中、送信機信号が正常な場合、送信機を使用して機体の速度、高度を制御できます。ただし、機体を左右に飛行させることはできません。機体が上昇または前方に飛行している場合、操作スティックを反対方向に最後まで倒すと、RTHが終了し、機体はブレーキをかけてホバリングします。
- GEO区域はRTHに影響を及ぼす恐れがあります。GEO区域付近での飛行は避けてください。
- 風速が強すぎると、機体はホームポイントに戻ることができない場合があります。慎重に飛行してください。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

着陸保護

スマートRTHまたは自動着陸の際、着陸保護が作動できる状況であれば、以下のように動作します。

1. 地面が着陸に適していると着陸保護機能が判断すると、機体はゆっくり着陸します。
2. 地面が着陸に適していないと判断された場合には、機体はその場でホバリングして、パイロットの確認を待ちます。
3. 着陸保護機能が作動しない場合、機体が地表0.5 mまで下降すると、DJI Flyが着陸プロンプトを表示します。スロットルスティックを1秒間下に倒して、着陸します。

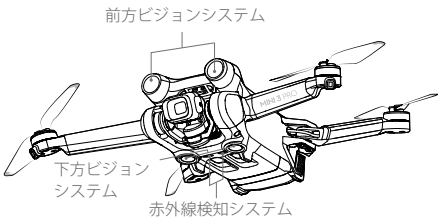
フェールセーフRTH中の場合、機体は地表0.5 mの高さまで下降するとホバリングし、DJI Flyに着陸プロンプトが表示されます。機体を着陸させるには、スロットルスティックを1秒間下に倒します。

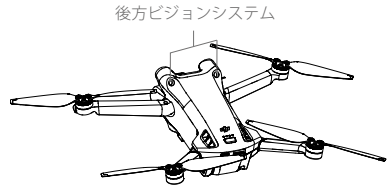
ビジョンシステムおよび赤外線検知システム

DJI Mini 3 Proには、赤外線検知システムと前方／後方／下方ビジョンシステムの両方が搭載されています。

前方／後方／下方ビジョンシステムは、それぞれ2台のカメラで構成されています。

赤外線検知システムは、2つの3D赤外線モジュールで構成されています。下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムは、GNSSを利用できない屋内やその他の環境下で飛行するために、機体が現在位置を維持し、より正確にホバリングできるようにします。





検知範囲

前方ビジョンシステム

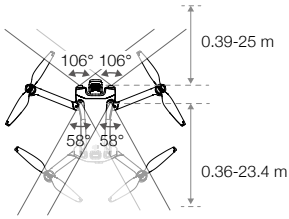
高精度測定範囲：0.39-25 m、FOV：106°（水平）、90°（垂直）

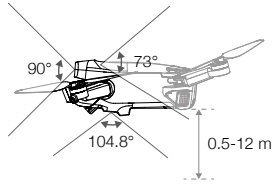
後方ビジョンシステム

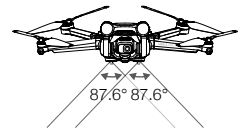
高精度測定範囲：0.36-23.4 m、FOV：58°（水平）、73°（垂直）

下方ビジョンシステム

高精度測定範囲：0.15-9 m、FOV：104.8°（前方／後方）、87.6°（左右） 下方ビジョンシステムは、機体が高度0.5～12 mにある場合に最も効果を発揮します。







 © 2022 DJI All Rights Reserved.

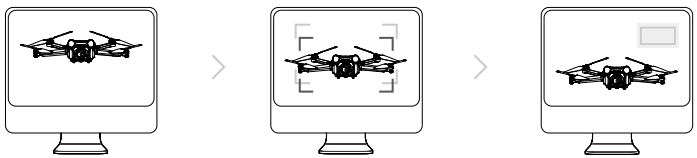
ビジョンシステムカメラのキャリブレーション

自動キャリブレーション

機体に設置されているビジョンシステムは、出荷前にキャリブレーション済みです。ビジョンシステムカメラに何らかの異常が発見されたときには、機体は自動的にキャリブレーションを実行し、DJI Flyにプロンプトが表示されます。その後の操作は不要です。

高度なキャリブレーション

自動キャリブレーションを行っても異常が続く場合、高度なキャリブレーションが必要というプロンプトがアプリに表示されます。高度なキャリブレーションはDJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用して行ってください。



01
機体を画面に向ける。

02
ボックスを揃える。

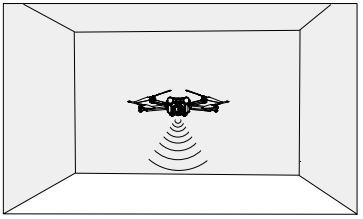
03
機体をパン／チルトする。

以下の手順に従って前方ビジョンシステムカメラをキャリブレーションし、同様に他のビジョンシステムカメラのキャリブレーションを行ってください。

ビジョンシステムの使用

下方ビジョンシステムの測位機能は、GNSS信号が利用できないか弱い場合に適用されます。ノーマルモードまたはシネモードで自動的に有効になります。

機体がノーマルモードあるいはシネモードで、DJI Flyで障害物回避が[迂回]または[ブレーキ]に設定されている場合、前方／後方ビジョンシステムが自動的に有効になります。前方／後方ビジョンシステムは、明るさが適切で障害物がはっきりと目立つか質感がある場合に最も効果的に動作します。慣性があるため、ユーザーは適切な距離内で機体にブレーキをかける必要があります。



© 2022 DJI All Rights Reserved.

⚠
- 飛行環境に注意してください。ビジョンシステムおよび赤外線検知システムは、特定のシナリオでのみ機能し、人による操作と判断に取って代わることはできません。飛行中は、常に周囲の環境とDJI Flyの警告に注意を払い、責任を持って機体の操作にあたってください。
- GNSS信号が利用できない場合、下方ビジョンシステムは、機体が高度0.5〜12 mで飛行している場合に最も効果を発揮します。機体の高度が12 mを超える場合は、ビジョンシステムが影響を受ける場合があるため細心の注意が必要です。
- 機体が水面上を飛行している場合、下方ビジョンシステムが適切に機能しないことがあります。そのため、着陸時に、機体が機体下の水面を完全に回避できない場合があります。常に飛行を制御し続け、周囲の環境に基づいて合理的な判断を下し、下方ビジョンシステムに過度に依存しないようにしてください。
- 下方ビジョンシステムは、はっきりとしたパターンの変化がない地表の上空、または照度の強弱が極端に異なるような環境では、適切に機能しません。ビジョンシステムは、次のような状況では適切に機能しません。
  a) モノクロ（黒一色、白色、赤色、緑色など）の地表面上を飛行している場合。
  b) 反射率が高い地表面上を飛行している場合。
  c) 水面または透明な地表面上を飛行している場合。
  d) 動く面または物体の上空を飛行している場合。
  e) 明るさが頻繁に、または急激に変わるエリアを飛行している場合。
  f) 非常に暗い（10ルクス未満）または非常に明るい（40,000ルクス超）地表面上を飛行している場合。
  g) 赤外線を強力に反射または吸収する地表面（鏡など）の上空を飛行している場合。
  h) はっきりした模様や構造のない地表面上を飛行している場合（電柱など）。
  i) 同じ模様や構造が繰り返し現れる（同じデザインのタイルなど）地表面上を飛行している場合。
  j) 表面積の小さい障害物上を飛行している場合（木枝など）。
- センサーは常にきれいな状態に保ってください。センサーの周りを塞いで覆ったり、遮ったりしないでください。
- 赤外線検知システムを遮断しないでください。
- 長期間保管後、ビジョンシステムカメラはキャリブレーションが必要な場合があります。そのような場合は、DJI Flyにプロンプトが表示され、自動的にキャリブレーションが開始されます。
- 雨や霧、または視界が100 m未満の場合は飛行しないでください。
- 離陸前に必ず以下を確認してください。
  a) 赤外線検知システムやビジョンシステムのガラスにステッカーやその他の障害物がないことを確認します。
  b) 赤外線検知システムやビジョンシステムのガラスに汚れや埃、水が付いている場合は、柔らかい布を使用してください。アルコールを含む洗浄剤は使用しないでください。
  c) 赤外線検知システムおよびビジョンシステムのガラスに傷などがある場合は、DJIサポートにお問い合わせください。

インテリジェント フライトモード

フォーカストラック

フォーカストラックには、Spotlight 2.0、Point of Interest 3.0、ActiveTrack 4.0のモードがあります。

Spotlight 2.0

カメラを被写体にロックした状態で、機体を手動で制御します。このモードは、車両、ボート、人などの静止した被写体と動く被写体の両方の撮影に対応します。被写体を中心に旋回するにはロー

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

ルスティックを動かし、被写体からの距離を変更するにはピッチスティックを動かします。また、高度を変更するにはスロットルスティックを動かし、フレームを調整するにはパンスティックを動かします。

Spotlightモードでは、DJI Flyで障害物回避動作が[迂回]または[ブレーキ]に設定されているかどうかに関係なく、ビジョンシステムが正常に動作している時に障害物が検知されると、機体はホバリングします。スポーツモードでは障害物回避が無効になることに注意してください。

Point of Interest 3.0 (POI 3.0)

機体は設定された半径と飛行速度をもとに、被写体を中心に旋回しながら、被写体をフレームにとらえ続けます。このモードは、車両、ボート、人などの静止した被写体と動く被写体の両方の撮影に対応します。機体がノーマル、スポーツ、シネモードのいずれかを問わず、最大飛行速度は13 m/sです。飛行速度は実際の半径に応じて動的に調整されることがあります。被写体を中心に旋回するにはロールスティックを動かし、被写体からの距離を変更するにはピッチスティックを動かします。また、高度を変更するにはスロットルスティックを動かし、フレームを調整するにはパンスティックを動かします。POI 3.0では障害物回避が無効になることに注意してください。

ActiveTrack 4.0

ActiveTrack 4.0はトレースと平行モードで構成されており、車両、ボート、人などの静止した被写体と動いている被写体の両方のトラッキングに対応しています。スポーツ、ノーマル、シネモードでは、最大飛行速度は同じです。被写体を中心に旋回するにはロールスティックを動かし、被写体からの距離を変更するにはピッチスティックを動かします。また、高度を変更するにはスロットルスティックを動かし、フレームを調整するにはパンスティックを動かします。

ActiveTrack 4.0では、機体はビジョンシステムが正常に動作しているときにDJI Flyの設定に関係なく、障害物を迂回します。

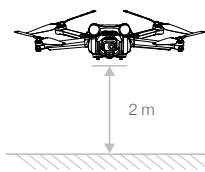
トレース：機体は被写体に向かって一定の角度で、一定の距離と高度を保って被写体をトラッキングします。機体は前方の被写体のみをトラッキングし、感知した障害物を迂回します。最大飛行速度は10 m/sです。ピッチスティックを動かしているとき、機体は前後で感知した障害物を素早く迂回することができます。ロールスティックまたはスロットルスティックを使用すると、障害物回避が無効になります。

パラレル：機体は被写体の側面から一定の角度と距離で被写体をトラッキングします。最大飛行速度は13 m/sです。障害物回避はこのモードでは無効です。

ActiveTrackでは、機体が高度2m-20mで人をトラッキングする場合、4m-20mの距離を保ちます。(最適距離：5 m-10 m、最適高度：2 m-10 m）機体が高6m-100mで車両やボートをトラッキングする場合、6m-100mの距離を保ちます。(最適距離：20m-50m、最適高度：10m-50m）。ActiveTrackを開始したときに距離と高度が範囲を外れている場合は、機体は対応する距離と高度の範囲まで飛行します。最高のパフォーマンスを発揮するために、機体を最適な距離と高度まで飛行させてください。

フォーカストラックの使用

1. 機体を離陸させ、地表2 m以上の高さにホバリングさせます。



© 2022 DJI All Rights Reserved.

2. カメラビューで画面上の被写体をドラッグ選択するか、DJI Flyの[制御設定]にある[被写体スキャニング]を有効にして、認識された被写体をタップするとフォーカストラックを有効にできます。デフォルトモードはスポットライトです。アイコンをタップしてスポットライト、ActiveTrack、POIを切り替えます。[GO]をタップしてフォーカストラックを開始します。

3. シャッター／録画ボタンをタップすると、写真を撮影する、もしくは録画を開始します。再生画面で映像を確認できます。

フォーカストラックの終了

DJI Flyで**[停止]**をタップするか送信機で飛行一時停止ボタンを1回押してフォーカストラックを終了します。

⚠
- 人や動物が走っていたり車両が走行していたりする場所ではフォーカストラックを使用しないでください。
- 小さく細い物体（木の枝、送電線など）、透明な物体（水やガラスなど）またはモノクロの表面（白い壁など）がある場所では、フォーカストラックを使用しないでください。
- 機体を手動で操縦します。緊急時には飛行一時停止ボタンを押すか、DJI Flyで[停止]をタップします。
- 以下のような状況でフォーカストラックを実行する場合には、特に注意してください。

  a) 追尾している対象が水平面上で動いていない。

  b) 追尾している対象が移動中に形を大きく変える。

  c) 追尾している対象を長時間にわたって見ることができない。

  d) 追尾している対象が雪面上で移動している。

  e) 追尾している対象がその周囲環境と同様な色またはパターンである。

  f) 明るさが非常に暗い（300ルクス未満）、または非常に明るい（10,000ルクス超）場合。
- フォーカストラックの使用に際しては地域のプライバシー法令に必ず従ってください。
- 車両、ボート、人（子供を除く）のみを追尾することをお勧めします。他の対象を追尾する場合は、注意して飛行してください。
- 遠隔操作用のモデルカーやボートを追尾しないでください。
- 追尾対象が他の対象に近づくと、追尾対象が誤ってもう一方の対象に切り替わってしまう可能性があります。
- 広角レンズまたはNDフィルターを使用している場合、フォーカストラックは無効になります。
- 1080p 48/50/60/120fps、2.7K 48/50/60fps、4K 48/50/60fpsなどの高解像度で録画する場合、フォーカストラックは無効になります。
- 照るさが不十分でビジョンシステムが利用できない場合でも、SpotlightとPOIは静止した被写体に使用できますが、障害物回避を行うことはできません。ActiveTrackは使用できません。
- フォーカストラックは機体が地上にあるときには使用できません。
- 機体が飛行制限に近い状態で飛行している場合やGEO区域内を飛行している場合、フォーカストラックが正しく機能しないことがあります。

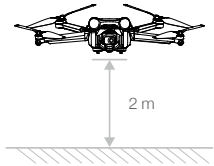
 © 2022 DJI All Rights Reserved.

マスターショット

マスターショットは、被写体をフレームの中央にとらえ続けながら、異なるパターンの飛行動作を順番に実行し、シネマティックな短編動画を生成します。

マスターショットの使用

1. 機体を離陸させ、地表2 m以上の高さにホバリングさせます。



2. DJI Flyで撮影モードアイコンをタップし、[マスターショット]を選択し、指示を確認します。撮影モードの使用方法を理解していること、および周囲に障害物がないことを確認してください。
3. カメラビューでターゲットの被写体をドラッグ選択します。**[開始]**をタップして録画を開始します。撮影が終了すると機体は元の位置に飛行して戻ります。

4. ▶をタップして、動画にアクセス、編集、またはソーシャルメディアで共有します。

マスターショットの終了

飛行一時停止ボタンを1回押すか、DJI Flyで⊗をタップしてマスターショットを終了します。機体はブレーキをかけてホバリングします。

⚠
- マスターショットは、建物などの障害物がない場所で使用してください。飛行経路に人間、動物、その他の障害物がないことを必ず確認してください。障害物が前後に検知されると機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。機体の側面の障害物を検知することはできないことに注意してください。
- 機体周辺の物に注意し、送信機を使用して機体の衝突を回避してください。
- 次の状況ではマスターショットを使用しないでください。

  a) 被写体が長時間遮られているか目視外にある場合。

  b) 被写体の色や模様が周囲と似ている場合。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

⚠ c) 被写体が空中にある場合。
d) 被写体が速く動いている場合。
e) 明るさが非常に暗い（300ルクス未満）、または非常に明るい（10,000ルクス超）場合。
- 建物の近くやGNSS信号が弱い場所で、マスターショットを使用しないでください。使用した場合、飛行経路が不安定になる可能性があります。
- マスターショットの使用に際しては地域のプライバシー法令に必ず従ってください。

クイックショット

クイックショット撮影モードには、ドローニー、ロケット、サークル、ヘリックス、ブーメラン、アステロイドがあります。DJI Mini 3 Proは、選択した撮影モードに従って録画し、短編動画を自動的に生成します。動画は再生画面で表示、編集したり、SNSで共有したりできます。

ドローニー：機体は、対象にカメラをロックした状態で後上方に飛行します。

ロケット：機体は、カメラを下に向けた状態で上昇します。

サークル：機体は、被写体周囲を旋回します。

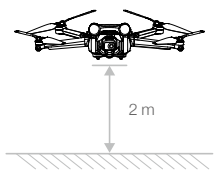
ヘリックス：機体は、被写体周囲をスパイラル状に上昇しながら旋回します。

ブーメラン：機体は楕円を描きながら始点から離れる時に上昇し、下降しながら始点に戻るパターンで対象の周りを旋回します。機体の始点は楕円の長軸の一端を形成し、もう一方の端は始点から見て被写体の反対側にあります。ブーメラン機能を使用する時は十分なスペースを確保してください。機体の周囲は半径30 m以上、上空は10 m以上のスペースが必要です。

アステロイド：機体は後方かつ上方に向かって飛行し、数枚の写真を撮影して、その後開始点まで戻ります。生成された動画は、まず最高地点のパノラマから始まり、そこから機体が下降していくような映像になります。アステロイド機能を使用する時は十分なスペースを確保してください。機体の周囲は後方に40m以上、上空は50 m以上のスペースが必要です。

クイックショットの使用

1. 機体を離陸させ、地表2 m以上の高さにホバリングさせます。



 © 2022 DJI All Rights Reserved.

2. DJI Flyで撮影モードアイコンをタップし、[クイックショット]を選択し、指示に従います。撮影モードの使用方法を理解していること、および周囲に障害物がないことを確認してください。
3. カメラビューでターゲットの被写体をドラッグ選択します。撮影モードを選択し、**[開始]**をタップして録画を開始します。撮影が終了すると機体は元の位置に飛行して戻ります。

4. ▶ をタップして、動画にアクセス、編集、またはソーシャルメディアで共有します。

クイックショットの終了

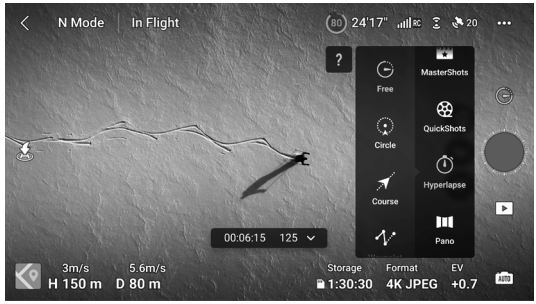
飛行一時停止ボタンを1回押すか、DJI Flyで⊗をタップしてクイックショットを終了します。機体はブレーキをかけてホバリングします。画面をもう一度タップすると、機体は撮影を続けます。

⚠
- クイックショットは、建物などの障害物がない場所で使用してください。飛行経路に人物、動物、その他の障害物がないことを必ず確認してください。障害物が前後に検知されると機体はブレーキをかけて、ホバリングします。機体の側面の障害物を検知することはできないことに注意してください。
- 機体周辺の物に注意し、送信機を使用して機体の衝突を回避してください。
- 次の状況ではクイックショットを使用しないでください。
  a) 被写体が長時間遮られているか目視外にある場合。
  b) 被写体が機体から50 m以上離れている場合。
  c) 被写体の色や模様が周囲と似ている場合。
  d) 被写体が空中にある場合。
  e) 被写体が速く動いている場合。
  f) 照るさが非常に暗い（300ルクス未満）、または非常に明るい（10,000ルクス超）場合。
- 建物の近くやGNSS信号が弱い場所で、クイックショットを使用しないでください。使用した場合、飛行経路が不安定になります。
- クイックショットを使用する場合は、必ず現地のプライバシー法令に従ってください。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

ハイパーラプス

ハイパーラプス撮影モードには、フリー／サークル／コースロック／ウェイポイントがあります。



フリー

機体は自動的に写真を撮り、タイムラプス動画を生成します。フリーモードは、機体が地上にある間に使用できます。離陸後、送信機を使用して機体の動き、およびジンバル角度を操作します。

フリーを使用するには次の手順に従ってください。

1. 撮影間隔と完成動画の時間を設定します。画面には撮影する写真の枚数と録画にかかる時間が表示されます。
2. シャッター／録画ボタンをタップして開始します。

クルーズ制御：カスタムボタン（DJI RCではC1ボタンまたはC2ボタン、DJI RC-N1送信機ではFnボタン）の機能を[クルーズコントロール]に設定し、操作スティックを倒しながら、カスタムボタンを押すとクルーズコントロールに入ります。機体は同じ速度で飛行し続けます。

サークル

機体は、選択した対象の周囲を飛行しながら自動的に写真を撮影し、タイムラプス動画を生成します。

サークルを使用するには次の手順に従ってください。

1. 撮影間隔、動画撮影時間、最大速度を設定します。サークルは、時計回りか反時計回りのどちらかに設定できます。画面には撮影する写真の枚数と録画にかかる時間が表示されます。
2. 画面で対象をドラッグ選択してください。パンスティックとジンバルダイヤルを使用してフレームを調整します。
3. シャッター／録画ボタンをタップして開始します。ピッチスティックで被写体からの距離を変更し、ロールスティックで旋回速度を制御して、スロットルスティックで垂直方向の飛行速度を制御します。

コースロック

コースロックによって、飛行方向を固定できます。コースロック中、機体が飛行対象にする被写体を選択することができ、また機体の向きとジンバルを制御できる間は被写体を選択しないこともできます。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

コースロックを使用するには下記の手順に従ってください。

1. 撮影間隔、動画撮影時間、最大速度を設定します。画面には撮影する写真の枚数と録画にかかる時間が表示されます。
2. 飛行方向を設定します。
3. 必要な場合には被写体をドラッグ選択します。ジンバルダイヤルとパンスティックを使用してフレームを調整します。
4. シャッター／録画ボタンをタップして開始します。ピッチスティックとロールスティックを動かして水平方向飛行速度を制御して、機体の向きを簡単に変更します。スロットルスティックを動かして垂直飛行速度を制御します。

ウェイポイント

機体は2〜5カ所のウェイポイント（経由点）の飛行経路を移動しながら自動的に写真を撮影し、タイムラプス動画を生成します。機体は、ウェイポイント1〜5、または5〜1の順番で飛行できます。

ウェイポイントを使用するには次の手順に従ってください。

1. 任意のウェイポイントとカメラ方向を設定します。
2. 撮影間隔と完成動画の時間を設定します。画面には撮影する写真の枚数と録画にかかる時間が表示されます。
3. シャッター／録画ボタンをタップして開始します。

機体はタイムラプス動画を自動的に生成し、再生で表示できます。カメラ設定で、JPEGまたはRAWフォーマットの映像を保存し、内部ストレージまたはmicroSDカード内に保存するかを選択できます。必要に応じて、映像をmicroSDカードに保存することをお勧めします。

- 最適なパフォーマンスを実現するには、50 m以上の高度でハイパーラプスを使用し、撮影間隔時間を2秒以上に設定してください。
- 機体から安全な距離（15 m以上）にある、静止している対象（高層の建物、山岳地形など）を選択することをお勧めします。機体に近すぎる被写体を選択しないでください。
- 十分に明るく、環境がビジョンシステムに適しているとき、ハイパーラプス使用中に障害物が前後、下方で検知されると機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。機体の側面の障害物を検知することはできないことに注意してください。ハイパーラプス使用中に明るさが不十分になるか環境がビジョンシステムに適さなくなると、機体の障害物回避が機能せずに撮影を続けます。慎重に飛行してください。
- 機体は25枚以上の写真を撮影した場合のみ動画を生成します。これは1秒の動画を生成するために必要な枚数です。ハイパーラプスが正常に終了したか、機体が予期せずモードを終了したか（ローバッテリーRTHがトリガーされた場合など）にかかわらず、動画はデフォルトで生成されます。

高度操縦支援システム (APAS 4.0)

高度操縦支援システム 4.0 (APAS 4.0) 機能は、ノーマルモードとシネモードで使用できます。APASが有効な場合、機体はユーザーからの操作に反応し続け、操作スティックによる入力情報と飛行環境の両方を考慮して経路を計画します。APASを使用すると、障害物の回避が容易になります。その結果、より滑らかな映像が実現し、優れた飛行体験を提供します。

ピッチスティックを前後に動かすと、機体は障害物の上下または左右に飛行します。障害物回避中に、機体は操作スティックの入力に応答することもできます。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

APASの有効時、送信機の飛行一時停止ボタンを押して機体を停止させることができます。機体は3秒間ホバリングして、パイロットからのさらなる操作入力を待ちます。

APASを有効化するには、DJI Flyを開き、[システム設定]から[安全]に進み、[迂回]を選択してAPASを有効化します。

着陸保護

着陸保護は、障害物回避が迂回またはブレーキに設定され、スロットルスティックを下に引いて機体を着陸させた場合に有効になります。

機体が着陸を開始すると、着陸保護が有効になります。

1. 着陸保護中、地面が着陸に適していると機体が判断すると、慎重に着陸します。
2. 地面が着陸に適さないと判断されると、機体は0.8 mの高さまで下降してホバリングします。スロットルスティックを5秒超押し下げると、機体は障害物回避が動作せずに着陸します。

⚠
- インテリジェント フライトモードを使用している場合、APASは無効になります。機体がインテリジェント フライトモードを終了すると、自動的に有効になります。1080p 120fps、2.7K 48/50/60fps、4K 48/50/60fpsなどの高解像度で録画する場合、APASは無効になります。
- APASは、前方、後方、下方に飛行する場合にのみ使用できます。機体が左方、右方、または上方に飛行している場合、APASは使用できません。このような場合、迂回または障害物回避は動作しません。
- ビジョンシステムが利用可能な場合、必ずAPASを使用するようにしてください。目的の飛行経路に沿って人、動物、表面積の小さい物体（木枝など）、透明な物体（ガラスや水など）がないことを必ず確認してください。
- ビジョンシステムが利用可能であるかGNSS信号が強いときにはAPASを必ず使用するようにしてください。水や雪で覆われたエリアの上を機体が飛行している場合、APASが正しく機能しないことがあります。
- 非常に暗い（300ルクス未満）環境や非常に明るい（10,000ルクス超）環境で飛行させる場合は、特に注意してください。
- DJI Flyに注意を払い、機体がAPASモードで正常に作動しているかを確認してください。
- 機体が飛行制限に近い状態で飛行している場合やGEO区域内を飛行している場合、APASが正しく機能しないことがあります。

フライトレコーダー

フライトテレメトリ、機体のステータス情報、その他のパラメーターなどの飛行データは、機体内蔵のデータレコーダーに自動的に保存されます。DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用して、データにアクセスできます。

プロペラ

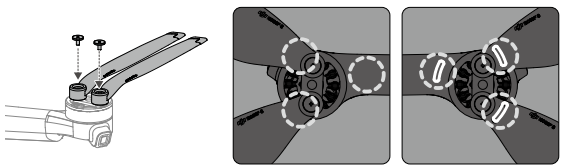
DJI Mini 3 Proのプロペラには2種類あり、それぞれ別の方向に回転するように設計されています。マークありのプロペラはマークありのモーターに、マークなしのプロペラはマークなしのモーターに取り付けてください。1つのモーターに取り付ける2つのプロペラブレードは同じものです。指示に従ってプロペラとモーターが合致していることを必ず確認してください。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

プロペラ	マークあり	マークなし
イラスト		
搭載位置	マークありのアームのモーターに取り付ける	マークなしのアームのモーターに取り付ける

プロペラの取り付け

マークありのプロペラはマークありのアームのモーターに、マークなしのプロペラはマークなしのアームのモーターに取り付けてください。機体パッケージのドライバーを使用して、プロペラを取り付けます。プロペラがしっかり固定されていることを確認してください。



マークなし　　マークあり

⚠
- プロペラの取り付けには、機体パッケージのドライバーのみを使用してください。他のドライバーを使用すると、ネジが損傷する恐れがあります。
- ネジを締めるときは、ネジをまっすぐ垂直にして締めてください。ネジは、取り付け面に対して斜めに取り付けないでください。取り付けが完了したら、ネジが平らになっているかどうかを確認し、プロペラを回転させて異常な抵抗がないかどうかを確認します。

プロペラの取り外し

機体パッケージのドライバーを使用してネジを緩め、プロペラをモーターから取り外します。

⚠
- プロペラのブレードの先端は鋭利です。注意して扱ってください。
- ドライバーは、プロペラを取り付けるためのものです。ドライバーを使用して機体を分解しないでください。
- プロペラが破損している場合は、対応するモーターのプロペラ（2つ）とネジ（2つ）を取り外して廃棄します。同じパッケージに同梱されているプロペラを使用してください。他のパッケージのプロペラと混ぜて使用しないでください。
- DJI公式のプロペラのみを使用してください。複数の種類のプロペラを一緒に使用しないでください。
- 必要に応じて追加のプロペラを購入してください。
- 飛行前に、毎回プロペラとモーターが正しくしっかりと取り付けられていることを確認してください。飛行時間30時間（約60回分のフライト）ごとに、プロペラのネジの締め付けが十分であるかどうかを確認してください。
- 各飛行前に、すべてのプロペラが良好な状態であることを確認してください。古くなったり、欠けたり、損傷したプロペラは使用しないでください。
- けがをしないよう、回転しているプロペラやモーターには手を触れたり近づけたりしないでください。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

- 輸送または保管中にプロペラをひねったり、折り曲げたりしないでください。
- モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転することを確認してください。モーターが止まって自由に回転しない場合は、直ちに機体を着陸させてください。
- モーターを改造しないでください。
- 飛行後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体の部分が接触したりしないようにしてください。
- モーターまたは機体の通気口を塞がないでください。
- 電源を入れた際、機体から起動音がなるか確認してください。

インテリジェント フライトバッテリー

DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリーは、電圧7.38 V、容量2453 mAhのバッテリーです。DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリープラスは、電圧7.38 V、容量3850 mAhのバッテリーです。この2台のバッテリーの構造とサイズは同じですが、重量と容量が異なります。両方のバッテリーは、スマート充電および放電機能を備えています。

バッテリーの機能

1. バランス充電：充電時、バッテリーセルの電圧は自動でバランス調整されます。
2. 自動放電機能：膨張を防ぐため、バッテリーは、1日アイドリング状態のときにバッテリー残量の約96%まで、9日間アイドリング状態のときに約60%まで自動的に放電します。放電中にバッテリーから適度な熱を感じますが、これは正常な状態です。
3. 過充電保護：バッテリーが完全に充電されると、充電は自動的に停止します。
4. 温度検知：損傷を防ぐために、バッテリーは、5° ～40℃の温度でのみ充電されます。充電中にバッテリーセルの温度が55℃を超えると、充電は自動的に停止します。
5. 過電流保護：過電流が検知されるとバッテリーの充電は停止されます。
6. 過放電保護：使用されていない場合、バッテリーの放電は自動的に停止して過放電を防ぎます。使用されている場合、バッテリーの過放電保護は無効です。
7. 短絡保護：短絡が検知されると、電源が自動的に切断されます。
8. バッテリーセルの損傷保護：DJI Flyは、損傷したバッテリーセルを検知すると警告プロンプトを表示します。
9. ハイバネーション モード：バッテリーセルの電圧が3.0V未満、またはバッテリー残量が10%未満の場合、バッテリーはハイバネーション モードに入り、過放電を防止します。バッテリーを充電すると、ハイバネーション モードから復帰します。
10. 通信：バッテリーの電圧、容量、電流に関する情報は、機体に送信されます。

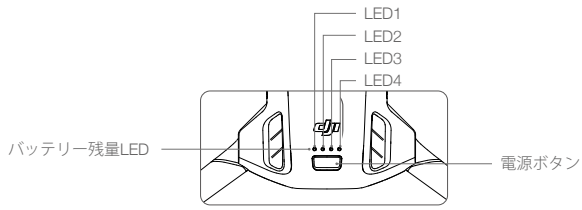
- ご使用の前に、DJI Mini 3 Proの安全ガイドラインとバッテリーのステッカーをご確認ください。ラベルに記載されている安全要件に反する行為をユーザーが行った場合、いかなる場合も弊社は一切の責任を負いかねます。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

バッテリーの使用

バッテリー残量の確認

電源ボタンを1回押して、バッテリー残量を確認します。



バッテリー残量LEDは、充電中および放電中に、バッテリーの残量を表示します。LEDのステータスは以下のように定義されます：

バッテリー残量LED

●：LED点灯　☼：LED点滅　○：LED消灯

LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
●	●	●	●	バッテリー残量 ≥ 88%
○	○	○	☼	75% ≤ バッテリー残量< 88%
○	○	●	○	63% ≤ バッテリー残量< 75%
○	○	☼	○	50% ≤ バッテリー残量< 63%
○	●	○	○	38% ≤ バッテリー残量< 50%
○	☼	○	○	25% ≤ バッテリー残量< 38%
●	○	○	○	13% ≤ バッテリー残量< 25%
☼	○	○	○	0% ≤ バッテリー残量< 13%

電源のオン／オフ

電源ボタンを1回押し、次に2秒間長押しすると機体の電源オン／オフを切り替えられます。機体の電源を入れると、バッテリー残量LEDにバッテリー残量が表示されます。機体の電源が切れると、バッテリー残量LEDが消灯します。

機体の電源が入っているときに電源ボタンを1回押すと、4つのバッテリー残量LEDが3秒間点滅します。電源ボタンが押されていないのにLED3と4が同時に点滅する場合は、バッテリーに異常があることを示しています。機体からバッテリーを取り外し、バッテリーを再度挿入して、しっかりと取り付けられていることを確認します。

低温注意

1. 低温環境（-10°～5℃）で飛行すると、バッテリー容量が著しく減少します。バッテリーを暖める場合、機体をその場でホバリングさせることをお勧めします。離陸の前には、必ずバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
2. バッテリーは極低温環境（-10℃より低い）では使用できません。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

3. 最高の性能を発揮するようにするには、バッテリー温度を20℃以上に保ってください。
4. 低温環境でバッテリー容量が減少すると、機体の風圧抵抗の性能が低下するため、細心の注意が必要です。慎重に飛行してください。
5. 海抜の高いところでの飛行にはさらに注意が必要です。

⚠ • 低温環境では、バッテリーをバッテリー収納部に装填して、離陸する前に機体の電源を入れ、ウォームアップするようにしてください。

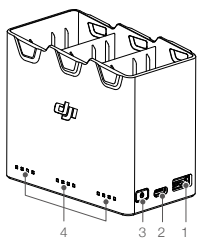
バッテリーの充電

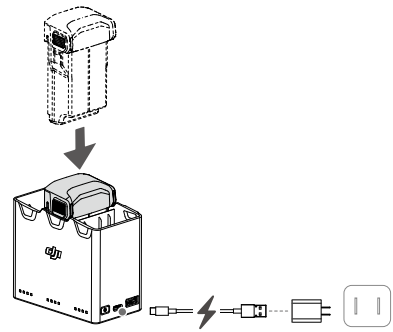
各使用の前には、必ずバッテリーを完全に充電してください。DJI Mini 3 Pro双方向充電ハブ、DJI 30W USB-C充電器、その他のUSB給電充電器など、DJIが提供する充電機器を使用することをお勧めします。DJI Mini 3 Pro双方向充電ハブとDJI 30W USB-C充電器はどちらもオプションのアクセサリーです。詳細については、公式DJIオンラインストアをご覧ください。

充電ハブの使用

DJI Mini 3 Pro双方向充電ハブをUSB充電器と一緒に使用すると、3個のインテリジェント フライトバッテリーまたはインテリジェント フライトバッテリープラスをバッテリー残量の多いものから順に充電します。充電ハブをDJI 30W USB-C充電器と一緒に使用すると、1台のインテリジェント フライトバッテリーを約56分で、1台のインテリジェント フライトバッテリープラスを約78分で完全に充電できます。

充電ハブがUSB充電器を介してAC電源に接続されている場合、インテリジェント フライトバッテリーと外部デバイス（送信機やスマートフォンなど）の両方をハブに接続して充電できます。デフォルトでは、バッテリーが外部デバイスより先に充電されます。充電ハブがAC電源に接続されていない場合は、インテリジェント フライトバッテリーをハブに挿入し、インテリジェント フライトバッテリーをパワーバンクとして使用し、外部デバイスをUSBポートに接続してデバイスを充電します。詳細については、DJI Mini 3 Pro双方向充電ハブのユーザーガイドを参照してください。





1. USBポート
2. 電源ポート (USB-C)
3. 機能ボタン
4. ステータスLED

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

充電方法

1. カチッと音がするまでバッテリーを充電ハブに挿入します。
2. USB-CケーブルとDJI 30W USB-C充電器またはその他のUSB給電充電器を使用して、充電ハブを電源コンセント (100-240 V、50/60 Hz) に接続します。
3. 残量が一番高いバッテリーが最初に充電されます。他のバッテリーは、残量に応じて順番に充電されます。対応するステータスLEDは、充電ステータスを表示します（下の表を参照）。対応するLEDは、バッテリーが完全に充電されると緑色に点灯します。

ステータスLEDの説明

充電ステータス

点滅パターン	説明
ステータスLED（一列）が連続して（すばやく）点滅	該当のバッテリーポートのバッテリーは、Quick Charge充電器を使用して充電されています。
ステータスLED（一列）が連続して（ゆっくり）点滅	該当のバッテリーポートのバッテリーは、通常の充電器を使用して充電されています。
ステータスLED（一列）が点灯	該当のバッテリーポートのバッテリーの充電が完了しました。
すべてのステータスLEDが順番に点滅	バッテリーが挿入されていません。

バッテリー残量

充電ハブの各バッテリーポートには、LED1からLED4（左から右） の一列に並んだステータスLEDがあります。機能ボタンを1回押して、バッテリー残量を確認することができます。バッテリー残量LEDステータスは、機体のステータスと同じです。詳細については、機体のバッテリー残量LEDのステータスと説明を参照してください。

異常ステータス

バッテリー異常のLEDステータスは機体と同じです。詳細については、バッテリー保護メカニズムのセクションを参照してください。

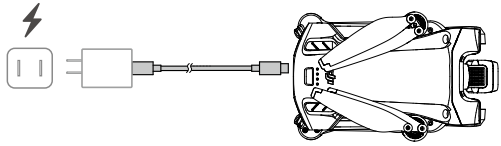
⚠
- 充電ハブに電力を供給するには、DJI 30W USB-C充電器またはその他のPD規格対応のUSB充電器を使用することをお勧めします。
- 環境温度は充電速度に影響を及ぼします。25℃の換気の良い環境では、充電速度がより速くなります。
- 充電ハブは、BWX162-2453-7.38インテリジェント フライトバッテリーおよびBWX162-3850-7.38インテリジェント フライトバッテリープラスとのみ互換性があります。それ以外のバッテリーモデルと一緒に充電ハブを使用してしないでください。
- 本充電ハブを使用する際は、平らで安定した面に置いてください。火災の危険を防ぐために、本機器が適切に絶縁されていることを確認してください。
- 充電ハブの金属端子に触れないでください。
- 金属端子の汚れが目立つ場合は、きれいな乾いた布で拭いてください。

充電器の使用

1. バッテリーが機体に正しく取り付けられていることを確認してください。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

2. USB充電器をACコンセント (100-240 V、50/60 Hz) に接続します。必要に応じて電源アダプターを使用してください。
3. USB-Cケーブルを使用して、USB充電器を機体の充電ポートに接続します。
4. 充電中、バッテリー残量LEDは現在のバッテリー残量を表示します。
5. バッテリー残量LEDがすべて緑色に点灯したら、バッテリーの充電は完了です。充電が完了したら、充電器を取り外します。



- 機体の電源が入っているとバッテリーを充電できません。
- 機体の充電ポートの最大充電電圧は12 Vです。
- 飛行直後にはインテリジェント フライトバッテリーが過熱していることがあります。すぐには充電しないでください。バッテリーを室温近くまで放熱してから、再充電してください。
- セルの温度が動作範囲（5°～40℃）内でない場合、充電器はバッテリーの充電を停止します。推奨する充電温度範囲は22°～28℃です。
- バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヵ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。DJI 30W USB-C充電器またはその他のPD規格対応のUSB充電器を使用することをお勧めします。

- DJI 30W USB-C充電器を使用する場合、Mini 3 Proインテリジェント フライトバッテリーの充電時間は約1時間4分で、Mini 3 Proインテリジェント フライトバッテリープラスの充電時間は約1時間41分です。
- 安全上の理由から、輸送中はバッテリーの残量を低い状態にしておいてください。輸送前に、バッテリーを30%以下に放電しておくことをお勧めします。

下の表は、充電中のバッテリー残量LEDを示しています。

LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
☼	○	○	○	0% <バッテリー残量≤ 50%
☼	☼	☼	○	50% <バッテリー残量≤ 75%
☼	☼	☼	☼	75% <バッテリー残量 <100%
○	○	○	○	充電完了

- バッテリー残量LEDの点滅間隔は、使用するUSB充電器によって異なります。充電速度が高速な場合、バッテリー残量LEDが素早く点滅します。
- バッテリーが機体に正しく挿入されていない場合、LED3とLED4が同時に点滅します。バッテリーを再度挿入し、しっかり取り付けられていることを確認してください。
- 4つのLEDが同時に点滅する場合、バッテリーが損傷していることを示します。

バッテリー保護メカニズム

バッテリーのLEDは、異常な充電状態に関するバッテリー保護通知を表示します。

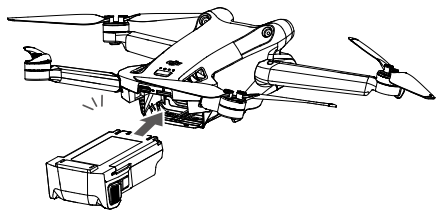
 © 2022 DJI All Rights Reserved.

バッテリー保護メカニズム					
LED1	LED2	LED3	LED4	点滅パターン	ステータス
○	☼	○	○	LED2が毎秒2回点滅	過電流検知
○	☼	○	○	LED2が毎秒3回点滅	短絡検知
○	○	☼	○	LED3が毎秒2回点滅	過充電検知
○	○	☼	○	LED3が毎秒3回点滅	充電器の過電圧検知
○	○	○	☼	LED4が毎秒2回点滅	充電温度が低すぎる
○	○	○	☼	LED4が毎秒3回点滅	充電温度が高すぎる

バッテリー保護メカニズムが有効になった場合、充電を再開するには充電器のプラグを抜き、その後、再び差し込みます。充電温度が異常な場合は、正常に戻るまで待ちます。充電器のプラグを抜き差しすることなく、バッテリーは自動的に充電を再開します。

インテリジェント フライトバッテリーの装着

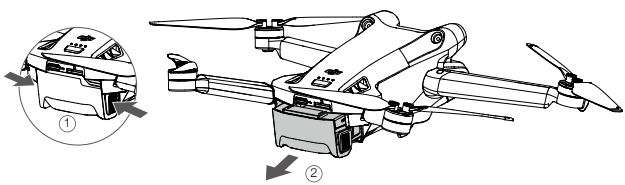
インテリジェント フライトバッテリーまたはインテリジェント フライトバッテリープラスを機体のバッテリー収納部に挿入します。バッテリーバックルがしっかりと固定されると、カチッという音がします。これでバッテリーが完全に挿入されていることを確認できます。



⚠ • カチッという音でバッテリーが挿入されていることを確認します。バッテリーがしっかりと取り付けられていない場合に機体を離陸させないでください。バッテリーと機体の接触が悪くなり、危険を招く恐れがあります。

インテリジェント フライトバッテリーの取り外し

バッテリーの側面にあるバッテリーバックルの突起部分を押し、収納部から取り外します。



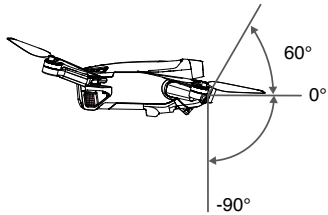
⚠ • 機体の電源が入っているときは、バッテリーを挿入したり取り外したりしないでください。
• バッテリーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

ジンバル＆カメラ

ジンバルの特徴

DJI Mini 3 Proの3軸ジンバルは、カメラを安定させ、これによりクリアで安定した画像や動画を高速で撮影できます。ジンバルのチルト制御範囲は-90° ～+60° で、ロール軸制御角度は-90°（ポートレート）と0° （ランドスケープ）の2種類があります。



送信機のジンバルダイヤルを使用して、カメラのチルトを操作します。または、DJI Flyのカメラビューから行えます。調整バーが表示されるまで画面を押し、上下にドラッグしてカメラのチルトを操作します。DJI Flyのランドスケープ／ポートレート モードスイッチをタップして、2つのジンバルロール角度を切り替えます。ポートレート モードが有効になっている場合、ロール軸は-90° に回転し、ランドスケープ モードでは0° に戻ります。

ジンバルモード

2種類のジンバル操作モードがあります。DJI Flyの各操作モードを切り替えます。

フォローアップモード：ジンバルの向きと機体の前面の角度は、常に一定の角度を保ちます。ユーザーはジンバルのチルトを調整できます。このモードは静止画の撮影に適しています。

FPVモード：機体が前方に飛行している場合、ジンバルが機体の動きと同調して、FOV視点の飛行体験を提供します。

⚠
- 離陸する前に、ジンバル上にステッカーが貼られていないことや障害物がないことを確認してください。機体の電源を入れた状態でジンバルを押したり叩いたりしないでください。ジンバルを保護するために、平らで開けた場所から離陸させてください。
- 衝突や衝撃によりジンバルの精密性が損なわれるおそれがあります。損傷があると、ジンバル性能に異常をきたすことがあります。
- ジンバル（特にジンバルのモーター）に埃や砂が付着するのを避けてください。
- 以下の状況ではジンバルモーターは保護モードに切り替わることがあります：a. 機体が平らでない地面に置かれている、ジンバルが阻害されている場合。b. 衝突時など、ジンバルに外からの過剰な力を受けた場合。
- ジンバルの電源を入れた後、ジンバルに外力をかけないでください。ジンバルに余計な負荷をかけないでください。ジンバル動作の不具合や、モーターの損傷を引き起こすおそれがあります。
- 機体の電源を入れる前に、必ずジンバル プロテクターを取り外してください。機体を使用しないときは、必ずジンバル プロテクターを取り付けてください。
- 濃霧や雲の中を飛行すると、ジンバルが湿気を帯びて一時的に不具合が生じることがありますが、ジンバルが乾くと機能は正常に戻ります。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

カメラ

DJI Mini 3 Proは、4K動画と48MPの写真を撮影できる1/1.3インチのCMOSセンサーを搭載しています。焦点距離（35 mm判換算）は約24 mmです。カメラの絞りはF1.7で、1 m～∞（無限遠）までの距離の撮影を行います。

DJI Mini 3 Proカメラは48MPの静止画を撮影でき、シングル、バースト、AEB、タイマー撮影、パノラマなどの撮影モードに対応しています。また、H.264/H.265の動画録画、デジタルズーム、スローモーション録画にも対応しています。

- 使用中と保管中、温度と湿度がカメラに適したものであることを確認してください。
- レンズクリーナーを使用してレンズを清掃し、損傷や画質の低下を防いでください。
- カメラの通気口をふさがないでください。熱が発生して、負傷したり、機器が損傷したりするおそれがあります。

写真および動画の保存

DJI Mini 3 Proでは、microSDカードを使用して写真や動画を保存することができます。高解像度動画データの保存には高速の読み書き速度が必要なため、UHS-Iスピードクラス3規格以上のmicroSDカードが必要です。推奨microSDカードに関しては、仕様を参照してください。

microSDカードが利用できない場合は、機体の内部ストレージに写真や動画を保存することもできます。大容量のデータストレージには、microSDカードの使用をお勧めします。

- 機体の電源が入っているときは、機体からmicroSDカードを抜かないでください。microSDカードが損傷する可能性があります。
- カメラシステムが安定して動作するように、1回の動画撮影は30分までに制限してください。
- 使用する前にカメラ設定を確認し、正しく設定されていることを確認してください。
- 大切な写真や動画を撮影する前に、いくつかの画像を試し撮りし、カメラが正しく動作するか確認してください。
- 機体の電源が切れている場合、DJI Flyを使用して機体のmicroSDカードから写真や動画を転送することはできません。
- 機体の電源を正しく切ってください。カメラのパラメーターが正常に保存されず、記録された動画に影響がある場合があります。機械が読み取れない方式で記録された画像や動画による損失に対し、DJIは一切責任を負いません。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

送信機

本セクションでは、送信機の各機能について説明します。また、機体とカメラの操作手順についても説明します。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

送信機

DJI RC

DJI Mini 3 Proと組み合わせて使用すると、DJI RC送信機はOcuSync O3動画伝送が機能し、周波数帯域2.4 GHzと5.8 GHzの両方で動作します。最適な伝送チャンネルを自動選択し、1080p/30fps HDのライブビューを機体から最大12 km先の送信機に伝送できます（FCC規格に準拠し、電波干渉がない広い開けた敷地で測定）。DJI RCには、5.5インチのタッチ画面（1920×1080ピクセルの解像度）に加えて、さまざまな制御とカスタムボタンも装備されているため、機体を簡単に制御でき、遠隔から機体設定の変更することができます。18.72 Whの電力を供給する5200mAhの内蔵バッテリーによって、送信機の駆動時間は最大4時間になります。DJI RCには、Wi-Fi接続、内蔵GNSS (GPS+Beidou+Galileo)、Bluetooth、内蔵スピーカー、取り外し可能な操作スティック、microSDストレージなどその他多くの機能があります。

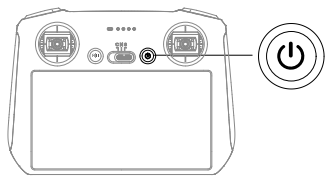
- 法規の準拠：送信機は現地法規に準拠しています。
- 操作スティックモード：各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。あらかじめプログラムされている3つのモード（モード1、モード2、モード3）を使用でき、DJI Flyでカスタムモードを設定することもできます。初期状態のモードはモード2です。

送信機の使用

電源のオン／オフ

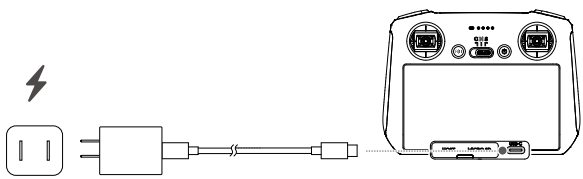
電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認します。

ボタンを1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。



バッテリーの充電

USB-Cケーブルを使用して、USB充電器を送信機のUSB-Cポートに接続します。バッテリーは、最大充電電力15 W (5V/3A) で約1時間30分で完全に充電できます。



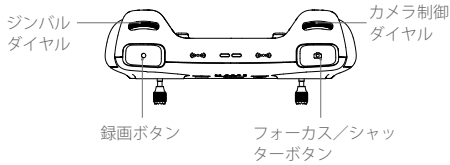
- PD規格対応のUSB充電器の使用をお勧めします。

ジンバル＆カメラの操作

フォーカス／シャッターボタン：半押しでオートフォーカスが作動し、全押しで写真を撮影します。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

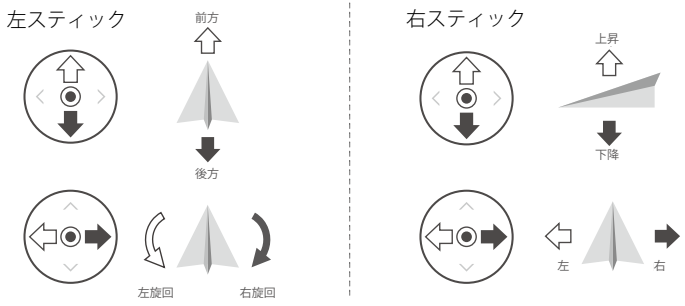
録画ボタン：1回押すと、録画を開始／停止します。
カメラ制御ダイヤル：ズームを調整します。
ジンバルダイヤル：ジンバルのチルトを制御します。



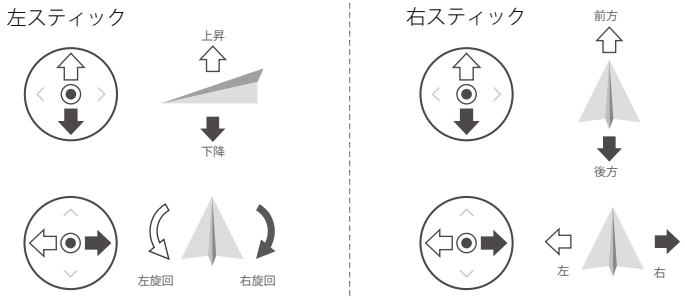
機体の制御

操作スティックを使用して、機体の向き（パン）、前後の動き（ピッチ）、高度（スロットル）、左右の動き（ロール）を制御します。各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。あらかじめプログラムされている3つのモード（モード1、モード2、モード3）を使用でき、DJI Flyでカスタムモードを設定することもできます。

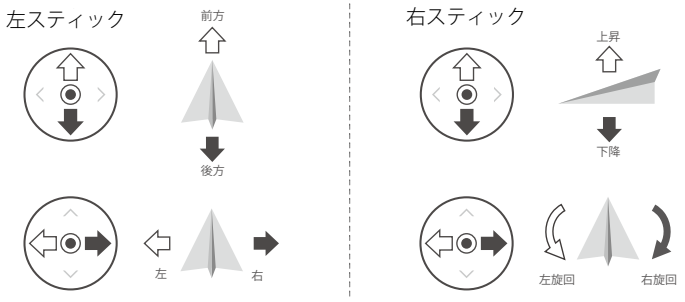
モード1



モード2



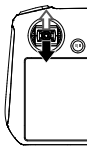
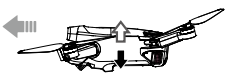
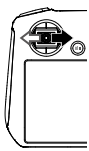
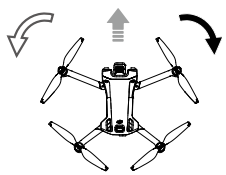
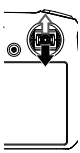
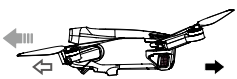
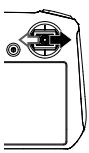
モード3



 © 2022 DJI All Rights Reserved.

送信機のデフォルトの制御モードはモード2です。本マニュアルでは、操作スティックの使用方法を説明するために例としてモード2を使用しています。

- スティック ニュートラル／中心点：操作スティックはセンターポジションにあります。
- 操作スティックの動作：操作スティックを倒して、センターポジションから遠ざけます。

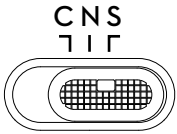
送信機 （モード2）	機体 （⇦は機首方向を示す）	備考
		左スティックを上下に倒して、機体の高度を変更します。上昇させるにはスティックを上に倒し、下降させるには下に倒します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の高度変更速度が速くなります。機体の高度を急激に変えないよう、操作スティックは優しくゆっくりと動かしてください。
		左スティックを左右に動かして、機体の進行方向を制御します。スティックを左に倒すと機体は反時計回りに回転し、右に倒すと時計回りに回転します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の回転速度が速くなります。
		右スティックを上下に倒すと、機体のピッチを変えられます。スティックを上に倒すと前進し、下に倒すと後進します。スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。
		右スティックを左右に倒すと、機体を左右に移動できます。左に倒すと左に飛び、右に倒すと右に飛びます。スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

フライトモードスイッチ

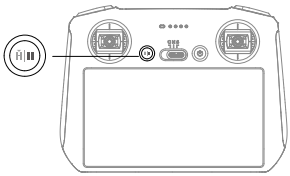
このスイッチを切り替えて、目的のフライトモードを選択します。

位置	フライトモード
S	スポーツモード
N	ノーマルモード
C	シネモード



飛行一時停止／RTHボタン

一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。送信機からビープ音が鳴るまでボタンを長押ししてReturn to Home（RTH）を開始すると、機体は最後に記録されたホームポイントに戻ります。再度このボタンを押すと、RTHをキャンセルし機体を制御できるようになります。



カスタムボタン

DJI Flyの[システム設定]に移動し、[制御]を選択してカスタム可能なC1およびC2ボタンの機能を設定します。

ステータスLEDとバッテリー残量LEDの説明

ステータスLED

点滅パターン		説明
Ⓡ ——	赤色点灯	機体との接続が切断
Ⓡ ·····	赤色点滅	機体のバッテリー残量が低下
Ⓖ ——	緑色点灯	機体と接続完了
Ⓑ ·····	青色点滅	送信機は機体にリンク中
Ⓨ ——	黄色点灯	ファームウェア更新に失敗
Ⓑ ——	青色点灯	ファームウェア更新に成功
Ⓨ ·····	黄色に点滅	送信機のバッテリー残量が低下
Ⓒ ·····	水色に点滅	操作スティックが中央位置にない

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

バッテリー残量LED

点滅パターン				バッテリー残量
●	●	●	●	75%～100%
●	●	●	○	50%～75%
●	●	○	○	25%～50%
●	○	○	○	0%～25%

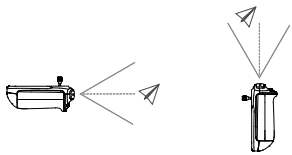
送信機のアラート

エラーや警告がある場合、送信機はビープ音を鳴らします。タッチ画面またはDJI Flyにプロンプトが表示される場合は注意してください。上から下にスワイプして[ミュート]を選択してすべてのアラートを無効にするか、音量バーを0にスライドして一部のアラートを無効にします。

送信機はRTH中にアラートを鳴らします。RTHアラートをキャンセルすることはできません。送信機は、送信機のバッテリー残量が低下（6%～10%）するとアラートが鳴ります。電源ボタンを押すことにより、バッテリー残量低下の警告をキャンセルできます。バッテリー残量が5%未満になるとトリガーされる、重度のバッテリー残量低下の警告はキャンセルできません。

最適な伝送範囲

機体と送信機間の信号は、下の図に示すように送信機が機体の方を向いている場合に最も信頼性が高くなります。



⚠
- 送信機と同じ周波数で動作する他のワイヤレス端末を使用しないでください。送信機が信号干渉を受ける場合があります。
- 飛行中において送信信号が弱い場合、DJI Flyにプロンプトが表示されます。送信機の向きを調整して、機体が最適な伝送範囲内にあるようにしてください。

送信機のリンク

送信機をコンボとして購入した場合は、送信機はすでに機体にリンクされています。そうでない場合は、以下の手順に従って、アクティベーションした後送信機と機体をリンクさせてください。

1. 機体と送信機の電源を入れます。
2. DJI Flyを起動します。
3. カメラビューで•••をタップし、[制御]を選択し[機体とペアリングする（リンク）]を選択します。
4. 機体の電源ボタンを4秒以上押し続けます。機体はリンクの準備ができると、ビープ音を1回鳴らします。リンクが確立すると、機体は2回ビープ音を鳴らし、送信機のバッテリー残量LEDが点灯します。

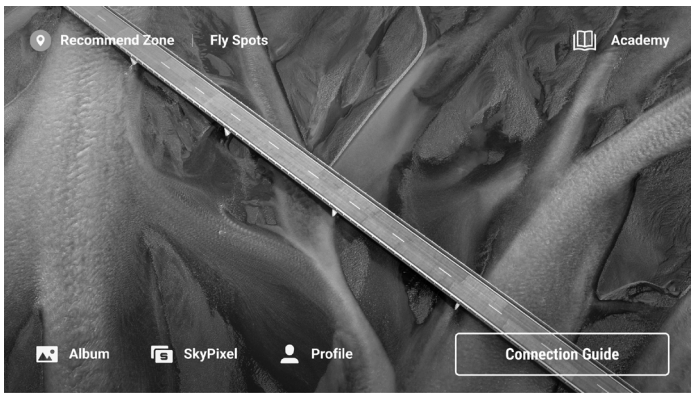
© 2022 DJI All Rights Reserved.

- リンクは、送信機が機体から0.5 m以内にある状態で行ってください。
- 新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。
- 最適な動画伝送には、送信機のBluetoothとWi-Fiをオフにします。

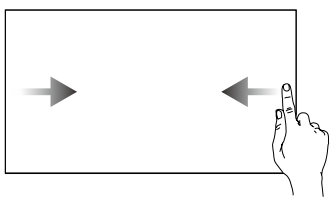
- 飛行の前には必ず送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラートが鳴ります。
- 送信機の電源を入れた状態で5分間操作をしないと、アラートが鳴ります。6分経過すると、自動的に送信機の電源が切れます。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押してアラートをキャンセルしてください。
- バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヵ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。

タッチ画面の操作

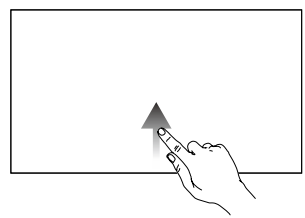
ホーム



操作

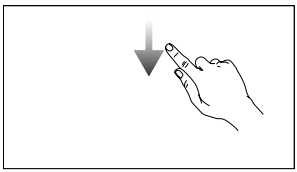


画面の左または右から中央にスワイプすると、前の画面に戻ります。



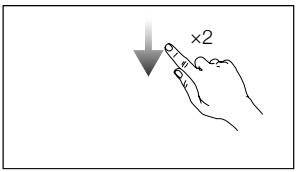
画面の下部から上にスワイプすると、DJI Fly.に戻ります。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.



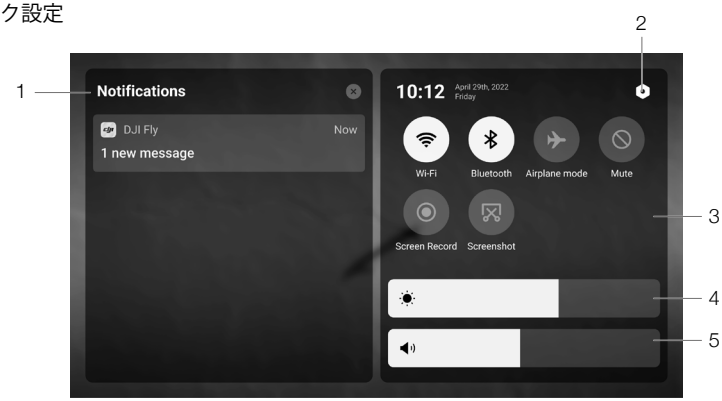
DJI Flyで、画面の上部から下にスワイプすると、ステータスバーが開きます。

ステータスバーには、時間、Wi-Fi信号、送信機のバッテリー残量などが表示されます。



DJI Flyで、画面の上部から下に2回スワイプすると、[クイック設定]が開きます。

クイック設定



1. 通知
   タップするとシステム通知を確認できます。
2. システム設定
   タップして[システム設定]にアクセスし、Bluetooth、音量、ネットワークなどを設定します。また、ガイドを表示して、コントロールとステータスLEDの詳細を確認することもできます。
3. ショートカット
   ：タップしてWi-Fiを有効または無効にします。長押しして設定画面に移動して、Wi-Fiネットワークを接続または追加します。
   ：タップしてBluetoothを有効または無効にします。長押しすると、設定画面に移動し、近くのBluetoothデバイスと接続します。
   ：タップすると、[機内モード]が有効になります。Wi-FiとBluetoothが無効になります。
   ：タップしてシステム通知をオフにし、すべてのアラートを無効にします。
   ：タップして画面収録を開始します。
   ：タップすると、スクリーンショットを撮ります。この機能は、microSDカードを送信機のmicroSDスロットに挿入した後に使用できるようになります。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

4. 明るさの調整
   バーをスライドして画面の明るさを調整します。
5. 音量の調整
   音量を調整するには、バーをスライドします。

高度な機能

コンパスのキャリブレーション

電波干渉のある場所で送信機を使用した後は、コンパスのキャリブレーションが必要な場合があります。送信機のコンパスをキャリブレーションする必要がある場合、警告プロンプトが表示されます。警告メッセージをタップし、キャリブレーションを開始してください。それ以外の場合は、以下の手順に従い送信機のキャリブレーションを行います。

1. 送信機の電源を入れ、[クイック設定]に移動します。
2. ⬢をタップしてシステム設定を入力し、下にスクロールしてコンパスをタップします。
3. 画面上の指示に従ってコンパスをキャリブレーションしてください。
4. キャリブレーションが成功すると、プロンプトが表示されます。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

DJI RC-N1

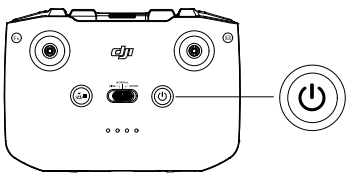
DJI Mini 3 Proと組み合わせて使用すると、DJI RC-N1はOcuSync O3動画伝送が機能し、周波数帯域2.4GHzと5.8GHzの両方で動作します。また、最適な伝送チャンネルを自動選択でき、機体から1080p/30fpsのHDライブビューを最大伝送距離12 km（FCC規格に準拠し、電波干渉のない広い開けた敷地で測定）先のモバイル端末のDJI Fly（モバイル端末のパフォーマンスによる）に送信し、表示します。ユーザーはこの範囲内で機体を制御し、設定の変更を簡単に行えます。内蔵バッテリーの容量は5200 mAhで、電力量は18.72 Wh、6時間の最大駆動時間に対応しています。送信機は、500 mA@5 Vの充電率でAndroidモバイル端末を自動充電します。iOSデバイスの充電はデフォルトでは無効になっています。iOSデバイスを充電するには、送信機の電源を入れるたびにDJI Flyで充電機能が有効になっていることを確認してください。

- 法規の準拠：送信機は現地法規に準拠しています。
- 操作スティックモード：各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。あらかじめプログラムされている3つのモード（モード1、モード2、モード3）を使用でき、DJI Flyでカスタムモードを設定することもできます。初期状態のモードはモード2です。

電源のオン／オフ

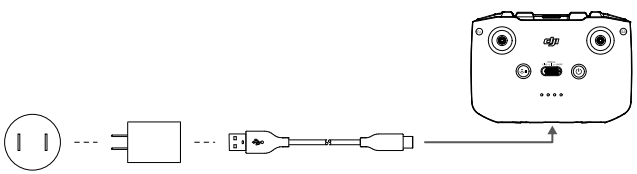
電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認します。バッテリー残量が少ない場合、使用前に充電してください。

ボタンを1回押し、次に2秒間長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。



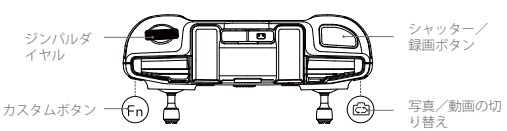
バッテリーの充電

USB-Cケーブルを使用して、USB充電器を送信機のUSB-Cポートに接続します。



ジンバル＆カメラの操作

シャッター／録画ボタン：1回押すと、写真を撮影する、または録画を開始／停止します。



© 2022 DJI All Rights Reserved.

写真／動画の切り替え：1回押すと写真モードと動画モードを切り替えます。

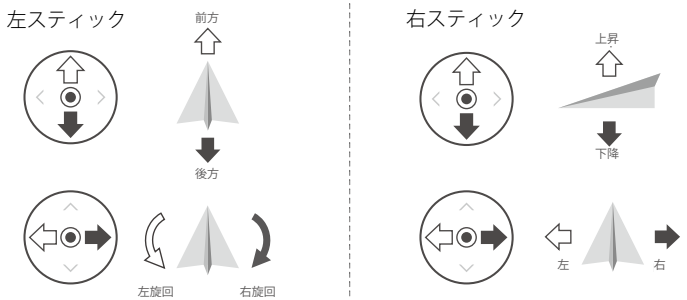
ジンバルダイヤル：ジンバルのチルトを制御するのに使用します。

カスタムボタンを長押ししたまま、ジンバルダイヤルを使用すると、ズームイン／ズームアウトします。

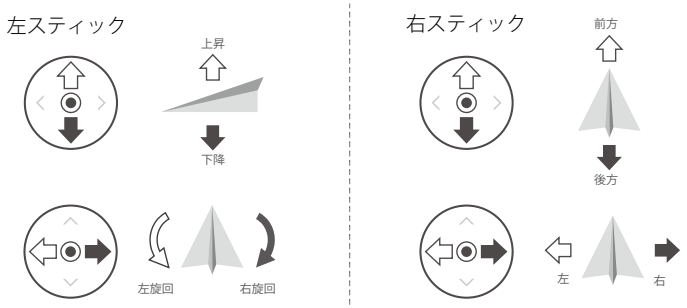
機体の制御

操作スティックを使用して、機体の向き（パン）、前後の動き（ピッチ）、高度（スロットル）、左右の動き（ロール）を制御します。各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。あらかじめプログラムされている3つのモード（モード1、モード2、モード3）を使用でき、DJI Flyでカスタムモードを設定することもできます。

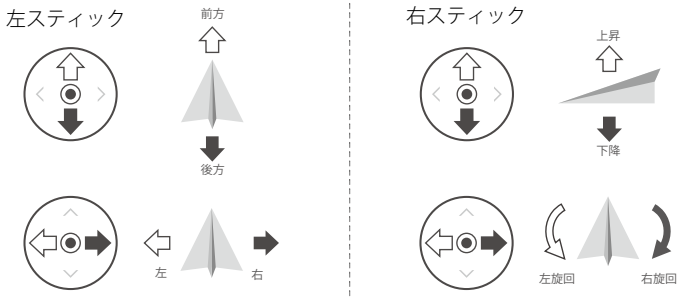
モード1



モード2



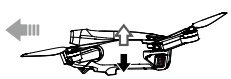
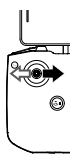
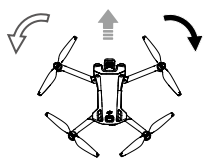
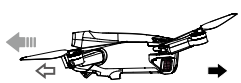
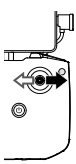
モード3



 © 2022 DJI All Rights Reserved.

送信機のデフォルトの制御モードはモード2です。本マニュアルでは、操作スティックの使用方法を説明するために例としてモード2を使用しています。

スティック ニュートラル／中心点：操作スティックはセンターポジションにあります。
操作スティックの動作：操作スティックを倒して、センターポジションから遠ざけます。

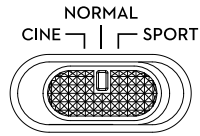
送信機 （モード2）	機体 （⇦は機首方向を示す）	備考
		左スティックを上下に倒して、機体の高度を変更します。上昇させるにはスティックを上に倒し、下降させるには下に倒します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の高度変更速度が速くなります。機体の高度を急激に変えないよう、操作スティックは優しくゆっくりと動かしてください。
		左スティックを左右に動かして、機体の進行方向を制御します。スティックを左に倒すと機体は反時計回りに回転し、右に倒すと時計回りに回転します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の回転速度が速くなります。
		右スティックを上下に倒すと、機体のピッチを変えられます。スティックを上に倒すと前進し、下に倒すと後進します。スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。
		右スティックを左右に倒すと、機体を左右に移動できます。左に倒すと左に飛び、右に倒すと右に飛びます。スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

フライトモードスイッチ

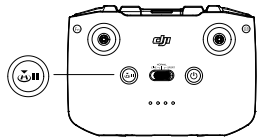
このスイッチを切り替えて、目的のフライトモードを選択します。

位置	フライトモード
スポーツ	スポーツモード
ノーマル	ノーマルモード
シネ	シネモード



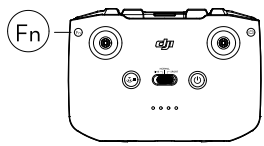
飛行一時停止／RTHボタン

一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。RTHを開始するには、送信機からビープ音が鳴るまでボタンを長押しします。機体は最後に記録されたホームポイントへ戻ります。再度このボタンを押すと、RTHをキャンセルし機体を制御できるようになります。



カスタムボタン

DJI Flyの[システム設定]に移動し、[制御]を選択してこのボタンの機能をカスタマイズします。カスタム可能な機能には、ジンバルの再センタリングや、マップとライブビューの切り替えが含まれます。



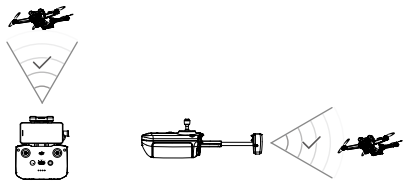
送信機のアラート

送信機はRTH中にアラートを鳴らします。RTHアラートをキャンセルすることはできません。送信機は、送信機のバッテリー残量が低下（6%～10%）するとアラートが鳴ります。電源ボタンを押すことにより、バッテリー残量低下の警告をキャンセルできます。重度のバッテリー残量低下の警告（バッテリー残量5%未満）はキャンセルできません。

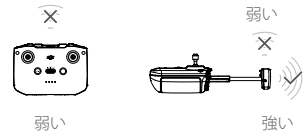
 © 2022 DJI All Rights Reserved.

最適な伝送範囲

機体と送信機間の信号は、下の図に示すように送信機が機体の方を向いている場合に最も信頼性が高くなります。



最適な伝送範囲



送信機のリンク

送信機をコンボとして購入した場合は、送信機はすでに機体にリンクされています。そうでない場合は、以下の手順に従って、アクティベーションした後送信機と機体をリンクさせてください。

1. 機体と送信機の電源を入れます。
2. DJI Flyを起動します。
3. カメラビューで•••をタップし、[制御]を選択し[機体とペアリングする（リンク）]を選択します。
4. 機体の電源ボタンを4秒以上押し続けます。機体はリンクの準備ができると、ビープ音を1回鳴らします。リンクが確立すると、機体は2回ビープ音を鳴らし、送信機のバッテリー残量LEDが点灯します。

- リンクは、送信機が機体から0.5 m以内にある状態で行ってください。
- 新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。
- 最適な動画伝送には、モバイル端末のBluetoothとWi-Fiをオフにします。

- 飛行の前には必ず送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラートが鳴ります。
- 送信機の電源を入れた状態で5分間操作をしないと、アラートが鳴ります。6分経過すると、自動的に送信機の電源が切れます。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押してアラートをキャンセルしてください。
- モバイル端末ホルダーを調整して、モバイル端末が確実に固定されるようにします。
- バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヵ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

DJI Flyアプリ

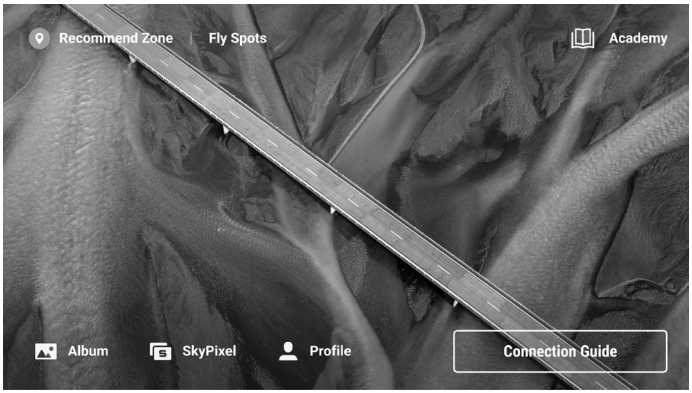
本セクションでは、DJI Flyアプリの主要機能について説明します。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

DJI Flyアプリ

ホーム

DJI Flyを起動して、ホーム画面に移動します。



フライスポット

近くの適切な飛行場所や撮影場所を表示または共有、GEO区域の詳細を確認、他のユーザーが撮影したさまざまな場所の航空写真をプレビューできます。

アカデミー

上部右のアイコンをタップするとアカデミーに入ります。製品チュートリアル、飛行のヒント、飛行安全に関する注意、およびマニュアルを確認できます。

アルバム

DJI Flyとモバイル端末からの写真と動画を表示します。マスターショットとクイックショットの動画は、モバイル端末にダウンロードしてレンダリングした後、表示されます。[作成]をタップして、[テンプレート]または[プロ]を選択します。テンプレートには、インポートされた映像の自動編集機能があります。プロでは、映像を手動編集できます。

SkyPixel

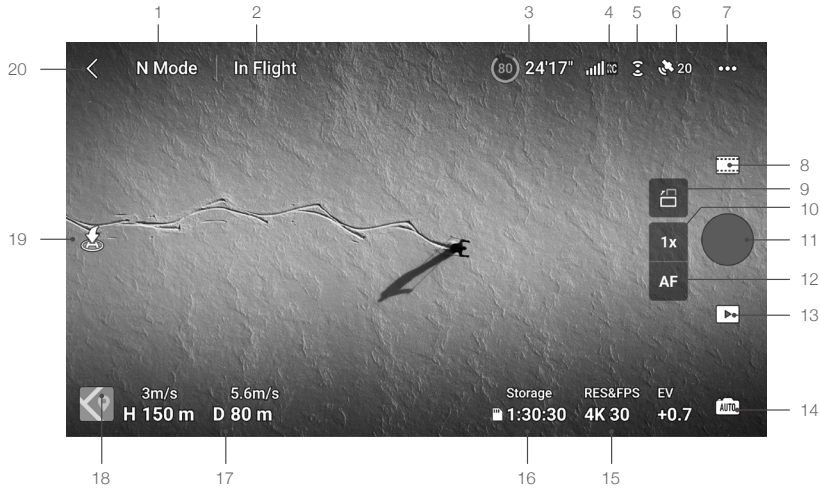
SkyPixelでは、DJI製品ユーザーが共有するビデオや写真を表示できます。

プロフィール

アカウント情報、飛行記録を表示したり、オンラインストアのDJIフォーラムにアクセスしたりできます。ドローンを探す機能、ファームウェア更新、カメラビュー、キャッシュデータ、アカウントのプライバシー、言語などの設定にアクセスできます。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

カメラビュー



1. フライトモード
   N：現在のフライトモードを表示します。
2. システム ステータスバー
   飛行中：機体の飛行ステータスを示し、さまざまな警告メッセージを表示します。警告プロンプトが表示されたら、タップして詳細情報を表示します。
3. バッテリー情報
   24'17"：現在のバッテリー残量と残りの飛行時間を表示します。
4. 動画ダウンリンク信号強度
   RC ：機体と送信機との間の動画ダウンリンク信号強度を表示します。
5. ビジョンシステム ステータス
   ：アイコンの上部は前方ビジョンシステムのステータスを示し、下部は後方ビジョンシステムのステータスを示します。ビジョンシステムが正常に動作しているときにはアイコンは白色になり、ビジョンシステムが利用不可のときにはアイコンは赤色になります。
6. GNSSステータス
   20 ：現在のGNSSの信号強度を表示します。タップしてGNSS信号の状態を確認します。アイコンが白色のときにホームポイントの更新ができ、GNSS信号が強いことを示します。
7. システム設定
   システム設定は、安全性、操作、カメラ、および伝送に関する情報を提供します。
   - 安全性
     飛行アシスタント：障害物回避を[迂回]または[ブレーキ]に設定すると、前方／後方ビジョンシステムが有効になります。障害物回避の無効時は、機体は障害物を感知できません。側方飛行の無効時は、機体は左右に飛行できません。
     レーダーマップ表示：有効な場合、リアルタイムの障害物検知レーダーマップが表示されます。
     飛行保護：タップして、飛行の最大高度と最大距離を設定します。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

RTH：タップして[RTH高度]を設定し、ホームポイントを更新します。
センサー：タップしてIMUとコンパスのステータスを表示し、必要に応じてキャリブレーションを開始します。
バッテリー：タップすると、バッテリーセル ステータス、シリアル番号、充電回数などのバッテリー情報が表示されます。
GEO区域をロック解除：タップすると、GEO区域のロック解除に関する情報を表示できます。
ドローンを探す機能は、マップを使用して地上にある機体の位置を検索します。
高度安全設定には、緊急時の飛行中の送信機信号が失われた時やプロペラ停止時の機体の挙動設定などがあります。
送信機信号が失われた時の機体の動作には、「Return-to-Home」、「降下」、「ホバリング」に設定できます。
プロペラ緊急停止の設定での「緊急時のみ」とは、衝突が起きたり、モーターが動かなかったり、空中でローリングしたり、機体が制御不能になって急上昇／急降下したりなど緊急事態が発生した場合にのみ飛行中にモーターを停止できることを示します。緊急プロペラ停止の「随時」は、ユーザーがコンビネーション スティック コマンド（CSC）を実行すると、飛行中にいつでもモーターを停止できることを示します。

⚠ •飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。

- 制御

機体設定：測定単位を設定します。
被写体のスキャン：被写体のスキャンが有効になっている場合、機体は被写体を自動検出します。
ジンバル設定：タップすると、ジンバルモードの設定、詳細設定の入力、ジンバル キャリブレーションの実行およびジンバルの再センタリングや下方へのチルトを操作できます。
送信機設定：タップすると、カスタムボタンの機能を設定したり、送信機を調整したり、操作スティックモード（モード1、モード2、モード3、カスタムモード）を切り替えたり、送信機の詳細設定を設定したりできます。
ビギナー飛行チュートリアル：飛行チュートリアルを確認できます。
機体と接続する：送信機と機体がリンクされていないときにタップすると、リンクを開始します。

- カメラ

カメラパラメーター設定：撮影モードに応じて、異なる設定を表示します。
一般設定：タップすると、ヒストグラム、露出オーバー警告、ピークレベル、グリッド線、ホワイトバランスの確認や設定を行えます。
保存場所：映像を機体の内部ストレージあるいはmicroSDカードに保存できます。内部ストレージとmicroSDカードをフォーマットできます。ご自身のモバイルデバイスと、機体の内部ストレージまたはmicroSDカードにダウンロードされた映像を同期でき、ビデオキャッシュの最大容量設定も調整できます。
カメラ設定のリセット：タップすると、カメラパラメーターがデフォルト設定に戻ります。

- 伝送

ライブ配信プラットフォームを選択すると、カメラビューをリアルタイムで配信できます。
伝送設定でも、周波数帯域とチャンネルモードを設定できます。

- 詳細情報

端末情報、ファームウェア情報、アプリのバージョン、バッテリーのバージョンなどを表示します。

8. 撮影モード

静止画：シングル撮影、バースト撮影、AEB、48MP、タイマー撮影。
動画：ノーマル、スローモーション。ノーマル動画モードでは、デジタルズームに対応しています。
マスターショット：被写体を選択します。機体は、被写体をフレームの中央に保持しながら、さ

© 2022 DJI All Rights Reserved.

まざまな操作を順番に実行し録画します。その後、シネマティックな短編動画を生成します。
ハイパーラプス：フリー、サークル、コースロック、ウェイポイントから選択します。
パノラマ：スフィア、180°、広角、垂直から選択します。
クイックショット：ドローニー、ロケット、サークル、ヘリックス、ブーメラン、アステロイドから選択します。

9. ランドスケープ／ポートレート モードの切り替え
：タップすると、ランドスケープ モードとポートレート モードを切り替えます。ポートレート モードに切り替えると、カメラが90度回転し、ポートレート動画や写真を撮影できます。ポートレートモードは、通常の写真モードと動画モードでのみ使用できます。マスターショット、クイックショット、ハイパーラプス、パノラマ、フォーカストラックを使用している場合は対応していません。

10. ズーム
1x ：アイコンはズーム倍率を示しています。タップして、ズーム率を調整します。アイコンをタップしたまま長押ししてズームバーを展開し、バーをスライドしてズーム率を調整します。

11. シャッター／録画ボタン
● ：タップすると、写真を撮影する、もしくは動画の録画を開始／停止します。

12. フォーカスボタン
AF ／MF：アイコンをタップして、フォーカスモードを切り替えます。アイコンをタップしたまま長押ししてフォーカスバーを展開し、バーをスライドしてカメラのフォーカスを調整します。

13. 再生
▶ ：タップすると、再生画面に入り、撮影した写真や動画をすぐにプレビューできます。

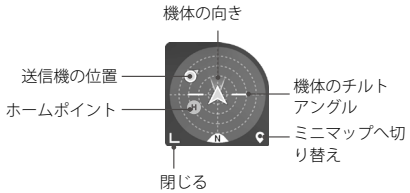
14. カメラモード切り替え
AUTO ：写真モードのときは、オートモードもしくはProモードから選択できます。パラメーターはモードごとに異なります。

15. 撮影パラメーター
RES&FPS EV
4K 30 **+0.7** ：現在の撮影パラメーターを表示します。タップしてパラメーター設定にアクセスします。

16. microSDカード情報
ストレージ
1:30:30 ：現在のmicroSDカードの撮影可能枚数や録画可能時間を表示します。タップしてmicroSDカードの使用可能な容量を表示します。

17. フライトテレメトリ
H 150 m ：機体からホームポイントまでの垂直距離。
D 80 m ：機体からホームポイントまでの水平距離。
3 m/s ：機体の垂直速度。
5.6 m/s ：機体の水平速度。

18. 地図
：タップして姿勢インジケーターに切り替えます。送信機の位置、ホームポイントの位置のほか、機体の方向やチルトアングルなどの情報を表示します。



 © 2022 DJI All Rights Reserved.

19. 自動離陸／自動着陸／RTH

／：アイコンをタップします。プロンプトが表示され、ボタンを長押しすると、自動離陸や自動着陸が開始します。

：タップするとスマートRTHプロセスが起動し、最後に記録されたホームポイントに機体を帰還させます。

20. 戻る

：タップするとホーム画面に戻ります。

ジンバルの調整バーが表示されるまで、カメラビューの画面の任意の場所をタップしたまま長押しします。バーをスライドしてジンバルの角度を調整します。

カメラビューの画面の任意の場所をドラッグ選択して、フォーカストラックを開始します。

画面をタップして、フォーカスまたはスポット測光を有効にします。フォーカスまたはスポット測光は、フォーカスモード、露出モード、スポット測光モードによって表示が異なります。

スポット測光の使用後には画面をタップしたまま長押しして、露出をロックします。露出のロック解除を行うには、画面をもう一度タップして長押しします。

- DJI Flyを起動する前に、端末を完全に充電してください。
- DJI Flyを使用する際は、モバイルデータ通信容量を使用します。データ使用料についてはお使いの通信会社にお問い合わせください。
- スマートフォンをディスプレイ機器として使用している場合は、飛行中に電話やメッセージを受けたり、その他のモバイル機能を使用したりしないでください。
- 画面に表示される安全性に関するプロンプト、警告メッセージ、および免責事項をよくお読みください。お使いの地域の関連規制を事前に確認しておいてください。ユーザーには、関連法規をすべて理解、順守して飛行する責任があります。
  a) 自動離陸と自動着陸機能を使用する前に、警告メッセージを読んで理解しておいてください。
  b) 初期状態の制限よりも高い高度に設定する前に、警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
  c) フライトモードを切り替える前に、警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
  d) GEO区域内またはその近くで出される警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
  e) インテリジェント フライトモードを使用する前に、あらかじめ警告メッセージを読んで理解しておいてください。
- アプリ上で、着陸するように指示するプロンプトが表示された場合は、安全な場所にすぐに機体を着陸させてください。
- 各フライトの前にアプリに表示されているチェックリストの警告メッセージをすべて確認してください。
- これまでに機体の操作経験がない場合、または自信を持って機体を操作するのに十分な経験がない場合は、アプリのチュートリアルを使って、飛行技術を練習してください。
- 飛行を開始する前にインターネットに接続して、飛行予定地域の地図データをキャッシュしてください。
- このアプリの目的は、操作をアシストすることにあります。アプリに頼りすぎず、ご自身の裁量に基づいて機体を制御してください。アプリの使用は、DJI Flyの利用規約とDJIのプライバシーポリシーの対象となります。アプリでこれらをよくお読みください。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

飛行

本セクションでは、安全な飛行方法と飛行に関する制限事項について説明します。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

飛行

飛行前の準備が完了したら、飛行技術を磨き、安全飛行の練習を行っておくことをお勧めします。飛行は常に障害物のない開けた場所で実施してください。飛行高度は500 mに制限されています。この高さを超えないでください。飛行中は、現地の法律および規制を順守してください。本製品を安全に使用するために、飛行前に安全ガイドラインをお読みください。

飛行環境の条件

1. 風速10.7 m/s超のとき、雪、雨、霧などの悪天候時には、機体の操作をしないでください。
2. 飛行は周囲が開けた場所でのみ行ってください。高い建物や巨大な金属製の建造物は、機体に搭載されているコンパスやGNSSシステムの精度に影響を及ぼす場合があります。機体は、構造物から最低でも5 m以上離れて距離を保つことをお勧めします。
3. 障害物、人混み、高電圧の送電線、樹木、および水域での飛行は避けてください（推奨の高さは水面から少なくとも3 mです）。
4. 高レベルの電磁波を発する送電線、基地局、変電所、放送用電波塔などのあるエリアを避け、電磁干渉を最小限に抑えてください。
5. 高い高度で飛行する場合、機体とそのバッテリーの性能は制限されます。慎重に飛行してください。インテリジェント フライトバッテリーを使用して飛行する場合、機体の最大運用限界高度（海抜）は4,000 mです。インテリジェント フライトバッテリープラスを使用する場合は、最大運用限界高度（海抜）は3,000 mに低下します。インテリジェント フライトバッテリーを使用した機体にプロペラガードが取り付けられている場合、最大運用限界高度（海抜）は1,500 mになります。
6. 南極圏、北極圏で機体のGNSSを使用することはできません。代わりにビジョンシステムを使用してください。
7. 車や船などの動いている物体から離陸させないでください。

飛行制限

GEO (Geospatial Environment Online)システム

DJIのGeospatial Environment Online (GEO) システムは、飛行の安全性と制限の更新に関する情報をリアルタイムで提供する、制限空域でのUAVの飛行を防ぐグローバル情報システムです。例外的な状況では、制限エリアのロック解除を行い、飛行を許可することができます。その前に、ユーザーは目的の飛行地域の現在の制限レベルに基づいてロック解除の要請を送信する必要があります。GEOシステムは、現地の法律や規制に完全に準拠していない場合があります。ご自身の飛行の安全性に責任を負い、制限エリアでの飛行のロック解除を要求する前に、関連する法的および規制要件について地方自治体に相談する必要があります。GEOシステムについての詳細は、https://www.dji.com/flysafeをご覧ください。

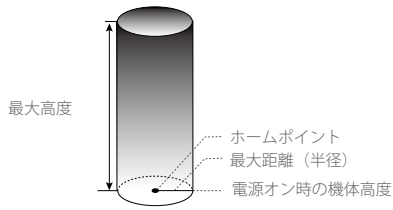
飛行制限

安全上の理由から、初期状態では飛行制限が有効になっており、ユーザーが機体を安全に使用できるようになっています。ユーザーは飛行制限の高度と距離を設定できます。GNSSが利用可能な場合は、高度制限、距離制限、GEO区域の機能が同時に働き、飛行安全性を管理します。GNSSが利用できない場合は、高度のみを制限できます。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

飛行高度と距離制限

最大飛行高度は機体の飛行高度を制限し、最大飛行距離はホームポイント周辺の機体の飛行半径を制限します。飛行の安全性向上のため、DJI Flyアプリを使用してこれらの制限を設定できます。



飛行中にホームポイントが手動で更新されない

強いGNSS信号

	制限	DJI Flyにプロンプト表示
最大高度	機体の高度はDJI Flyで設定された値を超えることはできません。	最大飛行高度に達しました。
最大距離（半径）	機体からホームポイントまでの直線距離は、DJI Flyで設定された最大飛行距離を超えることはできません。	最大飛行距離に達しました。

GNSS信号が弱い

	制限	DJI Flyにプロンプト表示
最大高度	十分に明るい場合、高度は離陸地点から30 mの高さに制限されます。 明るさが不十分で赤外線検知システムが作動している場合、高度は地表5 mの高さに制限されます。 明るさが不十分で赤外線検知システムが作動していない場合、高度は離陸地点から30 mの高さに制限されます。	最大飛行高度に達しました。
最大距離（半径）	制限なし	なし

⚠
- 機体の電源が入っていて、GNSS信号（GNSS信号強度 ≥ 2）が強い場合は、GNSSが弱いときの高度制限は制限されません。
- 機体が制限値に達した場合でも機体を制御することはできますが、それ以上遠くへは飛行させられません。本機が最大距離（半径）の外へ飛行した場合、GNSS信号が強ければ自動で範囲内に戻ります。
- 安全上の理由から、空港、高速道路、鉄道の駅、鉄道の線路、市街地、その他の要注意エリアの近くで飛行しないでください。機体は、常に目視内で飛行させてください。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

GEO区域

DJIのGEOシステムは、安全な飛行場所を指定し、個々の飛行のリスクレベルと安全に関する注意、および制限空域情報を提供します。すべての飛行制限エリアはGEO区域と呼ばれ、さらに制限区域、承認区域、警告区域、強化警告区域、高度制限区域に分けられます。DJI Flyにこれらの情報をリアルタイムで表示できます。GEO区域には、空港、大規模なイベントの会場、公衆衛生上の緊急事態（山火事など）が発生した地域、原子力発電所、刑務所、国有財産、軍事施設がありますが、これらに限定されません。デフォルトでは、GEOシステムは、安全またはセキュリティ上の懸念につながる可能性のある区域へのフライトまたは区域内での離陸を制限します。公式DJIウェブサイトには、世界中のGEO区域に関する包括的な情報を含むGEO区域の地図があります。https://www.dji.com/flysafe/geo-map

フライト前チェックリスト

1. 送信機、モバイル端末、インテリジェント フライトバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
2. インテリジェント フライトバッテリーおよびプロペラがしっかり取り付けられていることを確認してください。
3. 機体のアームが展開していること確認を確認してください。
4. ジンバル＆カメラが正常に機能することを確認してください。
5. モーターの動きを妨げるものがなく、モーターが正常に機能することを確認してください。
6. DJI Flyアプリが機体に正しく接続されていることを確認してください。
7. すべてのカメラレンズとセンサーに汚れがないことを確認してください。
8. DJIの純正部品またはDJIが認定する部品のみをご使用ください。非純正の部品やDJI認定メーカー以外が製造した部品を使用すると、システムに不具合が発生し、安全性が損なわれるおそれがあります。

自動離陸／自動着陸

自動離陸

自動離陸機能の使用：

1. DJI Flyを起動して、カメラビューに入ります。
2. フライト前チェックリストの手順をすべて完了します。
3. をタップします。安全に離陸できる状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
4. 機体は離陸し、地表約1.2 mの高さでホバリングします。

自動着陸

自動着陸機能の使用：

1. をタップします。着陸に安全な状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
2. をタップすると自動着陸をキャンセルできます。
3. 下方ビジョンシステムの動作が正常であれば着陸保護が有効化されます。
4. 着陸後、モーターは自動で停止します。

⚠ • 着陸に適切な場所を選択してください。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

モーターの始動と停止

モーターの始動

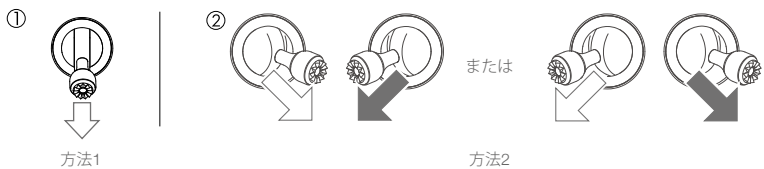
以下に示すようにコンビネーション スティック コマンド（CSC）を実行して、モーターを始動させます。モーターの回転が始まったら、両方のスティックを同時に放します。

モーターの停止

以下の2つの方法でモーターを停止できます。

方法1：機体が着陸しても、スロットルスティックを下に倒し続けます。モーターは3秒後に停止します。

方法2：機体が着陸したら、スロットルスティックを下に倒し、モーター始動の時と同じCSCコマンドを実行すると、モーターが停止します。モーターが停止したら両スティックを離します。



飛行中のモーター停止

飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。飛行中のモーター停止は、衝突が起きたり、機体が制御不能になって急上昇／急降下したり、空中でローリングしたりするなど緊急事態が発生した場合にのみ行ってください。飛行中にモーターを停止させるには、モーター始動時と同じCSCを実行します。初期状態の設定は、DJI Flyで変更できます。

飛行テスト

離陸／着陸手順

1. 見晴らしのよい平らな場所に、機体の後面を自分の方を向くようにして機体を置きます。
2. 送信機と機体の電源を入れます。
3. DJI Flyを起動して、カメラビューに入ります。
4. 機体の自己診断が完了するまで待ちます。DJI Flyに異常な警告が表示されない場合は、モーターを始動できます。
5. スロットルスティックをゆっくり上に倒して、離陸させます。
6. 着陸させるには、平らな地表面上でホバリングし、ゆっくりスロットルスティックを下に倒して下降させます。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

7. 着陸後、スロットルを下方向に倒し続けます。モーターは3秒後に停止します。
8. インテリジェント フライトバッテリーの電源を切ってから、送信機の電源を切ります。

動画に関する提案とヒント

1. フライト前チェックリストの目的は、安全に飛行し、飛行中に動画を撮影できるようにすることにあります。各フライト前に、飛行前のチェックリストをすべて確認してください。
2. DJI Flyで目的のジンバル操作モードを選択してください。
3. ノーマルモードまたはシネモードで飛行する時に、写真や動画を撮影することをお勧めします。
4. 雨や風の強い日などの悪天候時には飛行させないでください。
5. ニーズに合ったカメラ設定を選択してください。
6. 飛行ルートと撮影シーンを想定し飛行テストを実施してください。
7. 操作スティックをゆっくり操作して、機体がスムーズで安定して動くようにしてください。

⚠ • 離陸する前に、機体を平らで安定した地面に置いてください。手のひらから、または手で持ったまま機体を離陸させないでください。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

付録

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

付録

仕様

機体	
離陸重量	< 249 g
サイズ（長さ×幅×高さ）	折りたたんだ状態：145×90×62 mm 展開した状態（プロペラなし）：171×245×62 mm (L×W×H) 展開した状態（プロペラあり）：251×362×70 mm (L×W×H)
対角寸法	247 mm
最大上昇速度	Sモード：5 m/s Nモード：3 m/s Cモード：2 m/s
最大下降速度	Sモード：5 m/s Nモード：3 m/s Cモード：1.5 m/s
最大水平速度 （海抜に近接、無風）	Sモード：16 m/s Nモード：10 m/s Cモード：6 m/s
運用限界高度（海抜）	インテリジェント フライトバッテリー使用時：4,000 m インテリジェント フライトバッテリープラス使用時：3,000 m インテリジェント フライトバッテリーとプロペラガード装着時：1,500 m
最大飛行時間	34分（インテリジェント フライトバッテリー使用時で、無風状態での飛行速度21.6 km/h） 47分（インテリジェント フライトバッテリープラス使用時で、無風状態での飛行速度21.6 km/h）
最大ホバリング時間	30分（インテリジェント フライトバッテリー使用時で、無風状態） 40分（インテリジェント フライトバッテリープラス使用時で、無風状態）
最大飛行距離	18 km（インテリジェント フライトバッテリー使用時で、無風状態の環境で飛行速度43.2 km/hで飛行中に測定） 25 km（インテリジェント フライトバッテリープラス使用時で、無風状態の環境で飛行速度43.2 km/hで飛行中に測定）
最大風圧抵抗	10.7 m/s
最大傾斜角度	Sモード：40°（前方への飛行）、35°（後方への飛行） Nモード：25° Cモード：25°
最大角速度	Sモード：デフォルトで130°/s（DJI Flyでの調整可能範囲は20〜250°/s） Nモード：デフォルトで75°/s（DJI Flyでの調整可能範囲は20〜120°/s） Cモード：デフォルトで30°/s（DJI Flyでの調整可能範囲は20〜60°/s）
動作環境温度	-10℃〜40℃
GNSS	GPS + BEIDOU + GALILEO

© 2022 DJI All Rights Reserved.

ホバリング精度範囲	垂直：ビジョンポジショニング：±0.1 m GNSSポジショニング：±0.5 m 水平：ビジョンポジショニング：±0.3 m 高精度システムポジショニング：±0.5 m
伝送	
映像伝送システム	O3
動作周波数	2.400〜2.4835 GHz、5.725〜5.850 GHz（日本国内では、5.8 GHz帯は使用不可）
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz：<26 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC（日本）) 5.8 GHz：<26 dBm (FCC/SRRC)、<14 dBm (CE)
Wi-Fi	
プロトコル	802.11 a/b/g/n/ac
動作周波数	2.400〜2.4835 GHz、5.725〜5.850 GHz（日本国内では、5.8 GHz帯は使用不可）
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz: <19 dBm (FCC/CE/SRRC/MIC（日本）) 5.8 GHz：<20 dBm (FCC/SRRC)、<14 dBm (CE)
Bluetooth	
プロトコル	Bluetooth 5.2
動作周波数	2.400〜2.4835 GHz
伝送電力 (EIRP)	<8 dBm
ジンバル	
機械的可動範囲	チルト：-135°〜+80° ロール：-135°〜+45° パン：-30°〜+30°
操作可能範囲	チルト：-90°〜+60° ロール：0°〜-90°（ランドスケープまたはポートレート）
スタビライズ機構	3軸（チルト、ロール、パン）
最大制御速度（チルト）	100°/s
角度ぶれ範囲	±0.01°
検知システム	
前方ビジョンシステム	高精度測定範囲：0.39〜25 m 有効検知速度：飛行速度 < 10 m/s FOV：106°（水平方向）、90°（垂直方向）
後方ビジョンシステム	高精度測定範囲：0.36〜23.4 m 有効検知速度：飛行速度 < 10 m/s FOV：58°（水平方向）、73°（垂直方向）
下方ビジョンシステム	高精度測定範囲：0.15〜9 m 高精度ホバリング範囲：0.5〜12 m 有効検知速度：飛行速度 < 3 m/s FOV：前方／後方104.8°、左方／右方87.6°
動作環境	拡散反射表面 (>20%)で、反射のない識別可能な地面：適切な明るさのある状態（15ルクス超）
カメラ	
イメージセンサー	1/1.3インチCMOS、有効画素数：48 MP

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

レンズ	FOV：82.1° 焦点距離：24 mm（35mm判換算） 絞り：f/1.7 撮影範囲：1 m～∞
ISO	動画：100～6400 静止画：100～6400
電子シャッター速度	1/8000～2秒
最大静止画サイズ	4：3: 8064×6048 (48 MP)、4032×3024 (12 MP) 16：9: 4032×2268 (12 MP)
静止画モード	シングル 間隔： 2/3/5/7/10/15/20/30/60秒 (JPEG) 2/3/5/7/10/15/20/30/60秒 (JPEG+RAW) オート露出ブラケット (AEB)：0.7EVステップでの3/5ブラケット フレーム パノラマ：スフィア、180°、広角、垂直
動画解像度	4K：3840×2160@24/25/30/48/50/60 fps 2.7K：2720×1530@24/25/30/48/50/60 fps FHD：1920×1080@24/25/30/48/50/60 fps スローモーション：1920×1080@120 fps
最大動画ビットレート	150 Mbps
対応ファイルシステム	FAT32 (≤ 32GB) exFAT (> 32 GB)
静止画フォーマット	JPEG/DNG
動画フォーマット	MP4/MOV (H.264/H.265)
DJI RC-N1 送信機	
伝送	
映像伝送システム	異なるハードウェア機器構成の機体と使用する場合、DJI RC-N1送信機は、必要なファームウェアバージョンを自動で選択・更新し、リンクされた機体モデルに応じて次の伝送技術に対応しています。 a. DJI Mini 2/ DJI Mavic Air 2：O2 b. DJI Air 2S：O3 c. DJI Mavic 3：O3+ d. DJI Mini 3 Pro：O3
動作周波数	2.400～2.4835GHz、5.725～5.850GHz (日本では2.400～2.4835GHzのみ)
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz：<26 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC（日本）) 5.8 GHz：<26 dBm (FCC)、<23 dBm (SRRC)、<14 dBm (CE)
最大伝送距離（障害物や干渉がない場合）	12 km (FCC)、8 km (CE/SRRC/MIC（日本）)
伝送距離（一般的な使用場面）(FCC)	強い干渉（例：市内中心部）：1.5～3 km 中程度の干渉（例：郊外、小さな町）：3～7 km 干渉なし（例：農村地域、ビーチ）：7～12 km

© 2022 DJI All Rights Reserved.

一般	
動作環境温度	-10℃～40℃
バッテリー容量	5,200 mAh
バッテリータイプ	Li-ion
材料	LiNiMnCoO2
動作電流／電圧	1200 mA@3.6 V（Android端末の場合） 700 mA@3.6 V（iOS端末の場合）
対応モバイル端末サイズ	180×86×10 mm (高さ×幅×厚さ)
対応USBポートタイプ	Lightning、Micro USB（Type B）、USB-C
DJI RC送信機	
伝送	
映像伝送システム	異なるハードウェア機器構成の機体と使用する場合、DJI RC送信機は、必要なファームウェアバージョンを自動で選択・更新します。DJI Mini 3 Proとリンクすると、O3伝送技術に対応します。
動作周波数	2.400～2.4835GHz、5.725～5.850GHz (日本では2.400～2.4835GHzのみ)
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz：<26 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC（日本）) 5.8 GHz：<26 dBm (FCC)、<23 dBm (SRRC)、<14 dBm (CE)
最大伝送距離（障害物や干渉がない場合）	12 km (FCC)、8 km (CE/SRRC/MIC（日本）)
伝送距離（一般的な使用場面）(FCC)	強い干渉（例：市内中心部）：1.5～3 km 中程度の干渉（例：郊外、小さな町）：3～7 km 干渉なし（例：農村地域、ビーチ）：7～12 km
Wi-Fi	
プロトコル	802.11a/b/g/n
動作周波数	2.400-2.4835 GHz、5.150-5.250 GHz、5.725-5.850 GHz
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz：<23 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC（日本）) 5.1 GHz：<23 dBm (FCC/CE/SRRC/MIC（日本）) 5.8 GHz：<23 dBm (FCC/SRRC)、<14 dBm (CE)
Bluetooth	
プロトコル	Bluetooth 4.2
動作周波数	2.400～2.4835 GHz
伝送電力 (EIRP)	<10 dBm
一般	
動作環境温度	-10℃～40℃
GNSS	GPS + BEIDOU + GALILEO
バッテリー容量	5,200 mAh
バッテリータイプ	Li-ion
材料	LiNiMnCoO2
動作電流／電圧	1250 mA@3.6 V
ストレージ容量	対応するmicroSDカード

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

DJI RC送信機対応のmicroSDカード	UHS-I スピードクラス3のmicroSDカード
DJI RC送信機推奨microSDカード	SanDisk Extreme 64GB V30 A1 microSDXC SanDisk Extreme 128GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme 256GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme 512GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 64GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 256GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 400GB V30 A2 microSDXC SanDisk High Endurance 64GB V30 microSDXC SanDisk High Endurance 256GB V30 microSDXC Kingston Canvas Go Plus 64GB V30 A2 microSDXC Kingston Canvas Go Plus 256GB V30 A2 microSDXC Lexar High Endurance 64GB V30 microSDXC Lexar High Endurance 128GB V30 microSDXC Lexar 633x 256GB V30 A1 microSDXC Lexar 1066x 64GB V30 A2 microSDXC Samsung EVO Plus 512GB microSDXC
インテリジェント フライトバッテリー	
バッテリー容量	2453 mAh
標準電圧	7.38 V
最大充電電圧	8.5 V
バッテリータイプ	Li-ion
材料	LiNiMnCoO2
電力量	18.10 Wh
重量	約80.5 g
充電温度範囲	5℃～40℃
最大充電電力	37 W
インテリジェント フライトバッテリープラス	
バッテリー容量	3850 mAh
標準電圧	7.38 V
最大充電電圧	8.5 V
バッテリータイプ	Li-ion
材料	LiNiMnCoO2
電力量	28.4 Wh
重量	約121 g
充電温度範囲	5℃～40℃
最大充電電力	58 W
2WAY 充電ハブ	
入力	USB-C：5V⎓3A、9V⎓3A、12V⎓3A
出力	USB：5V⎓2A
定格出力	30 W
充電タイプ	バッテリー3個を順次充電
充電温度範囲	5℃～40℃

© 2022 DJI All Rights Reserved.

対応バッテリー	DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリー (BWX162-2453-7.38) DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリー Plus (BWX162-3850-7.38)
アプリ	
名称	DJI Fly
OS要件	iOS v11.0以降、Android v6.0以降
ストレージ	
機体に対応するmicroSDカード	UHS-I スピードクラス3のmicroSDカード
機体推奨microSDカード	SanDisk Extreme 64GB V30 A1 microSDXC SanDisk Extreme 128GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme 256GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme 512GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 64GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 256GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 400GB V30 A2 microSDXC SanDisk High Endurance 64GB V30 microSDXC SanDisk High Endurance 256GB V30 microSDXC SanDisk Max Endurance 32GB V30 microSDHC SanDisk Max Endurance 128GB V30 microSDXC SanDisk Max Endurance 256GB V30 microSDXC Kingston Canvas Go Plus 64GB V30 A2 microSDXC Kingston Canvas Go Plus 256GB V30 A2 microSDXC Lexar High Endurance 64GB V30 microSDXC Lexar High Endurance 128GB V30 microSDXC Lexar 667x 64GB V30 A1 microSDXC Lexar 633x 256GB V30 A1 microSDXC Lexar 1066x 64GB V30 A2 microSDXC Lexar 1066x 128GB V30 A2 microSDXC Lexar 1066x 256GB V30 A2 microSDXC Samsung PRO Plus 128GB V30 A2 microSDXC Samsung EVO Plus 512GB microSDXC

⚠ • 撮影モードに応じて、ISO感度も異なる場合があります。DJI Flyのさまざまな撮影モードについては、実際に調整可能なISO感度を確認してください。

ファームウェア更新

機体と送信機のファームウェアを更新するには、DJI FlyまたはDJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用します。

DJI Flyの使用

機体や送信機をDJI Flyに接続したときに新しいファームウェア更新がある場合、通知がされます。更新を開始するには、送信機またはモバイル端末をインターネットに接続して画面上の指示に従います。送信機が機体にリンクされていない場合はファームウェアを更新できませんのでご注意ください。インターネット接続が必要となります。

 © 2022 DJI All Rights Reserved.

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）の使用

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）で、機体と送信機のファームウェアを、それぞれ別々に更新できます。

以下の指示に従って機体ファームウェアを更新してください。

1. お使いのパソコンでDJI Assistant 2（一般向けドローン用）を起動し、DJIアカウントでログインします。
2. 機体の電源を入れて、20秒以内にパソコンのUSB-Cポートに機体を接続します。
3. DJI Mini 3 Proを選択し、[ファームウェア更新]をクリックします。
4. ファームウェアを選択します。
5. ファームウェアがダウンロードされるのを待ちます。ファームウェア更新が自動的に開始されます。
6. ファームウェア更新が完了するまで待ちます。

送信機ファームウェアの更新を行うには、以下の手順に従ってください。

1. お使いのパソコンでDJI Assistant 2（一般向けドローン用）を起動し、DJIアカウントでログインします。
2. 送信機の電源を入れ、USB-Cポート経由でパソコンに接続します。
3. 対応する送信機を選択し、[ファームウェア更新]をクリックします。
4. ファームウェアを選択します。
5. ファームウェアがダウンロードされるのを待ちます。ファームウェア更新が自動的に開始されます。
6. ファームウェア更新が完了するまで待ちます。

⚠
- 必ず記載されているすべての手順に従って、ファームウェアを更新してください。手順に従わない場合には更新に失敗する場合があります。
- ファームウェアの更新には約10分かかります。ジンバルが遅れて動作し、機体ステータスインジケーターが点滅して機体が再起動しますが、これは正常な動作です。更新が完了するまでお待ちください。
- 更新中はパソコンがインターネットに接続されていることを必ず確認してください。
- 更新を実行する前に、インテリジェント フライトバッテリー残量が40%、送信機のバッテリー残量が30%以上あることを確認してください。
- 更新中はUSB-Cケーブルの接続を外さないでください。

アフターサービス情報

アフターサービスポリシー、修理サービス、サポートについては、https://www.dji.com/supportをご覧ください。

© 2022 DJI All Rights Reserved.

DJI サポート
http://www.dji.com/support

本内容は変更されることがあります。

最新版は下記よりダウンロードしてください
http://www.dji.com/mini-3-pro

本書についてご質問がある場合は、以下にメッセージを送信してDJIまでお問い合わせください。**DocSupport@dji.com**

は、DJIの商標です。
Copyright © 2022 DJI All Rights Reserved.